

尤多乃記

包結圖説

下の巻

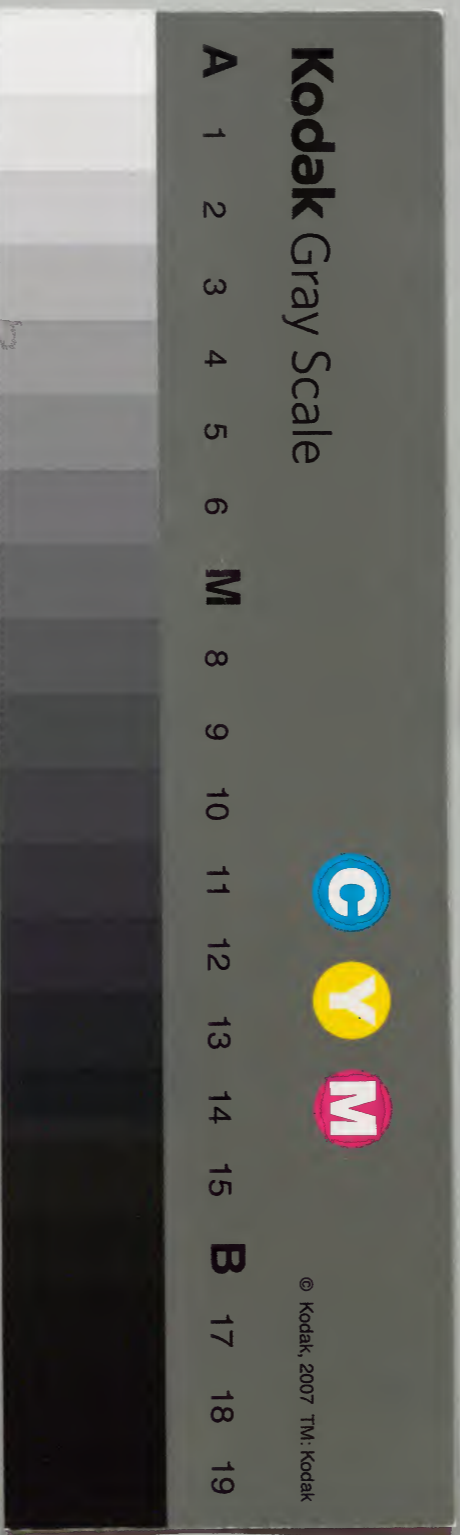
番外

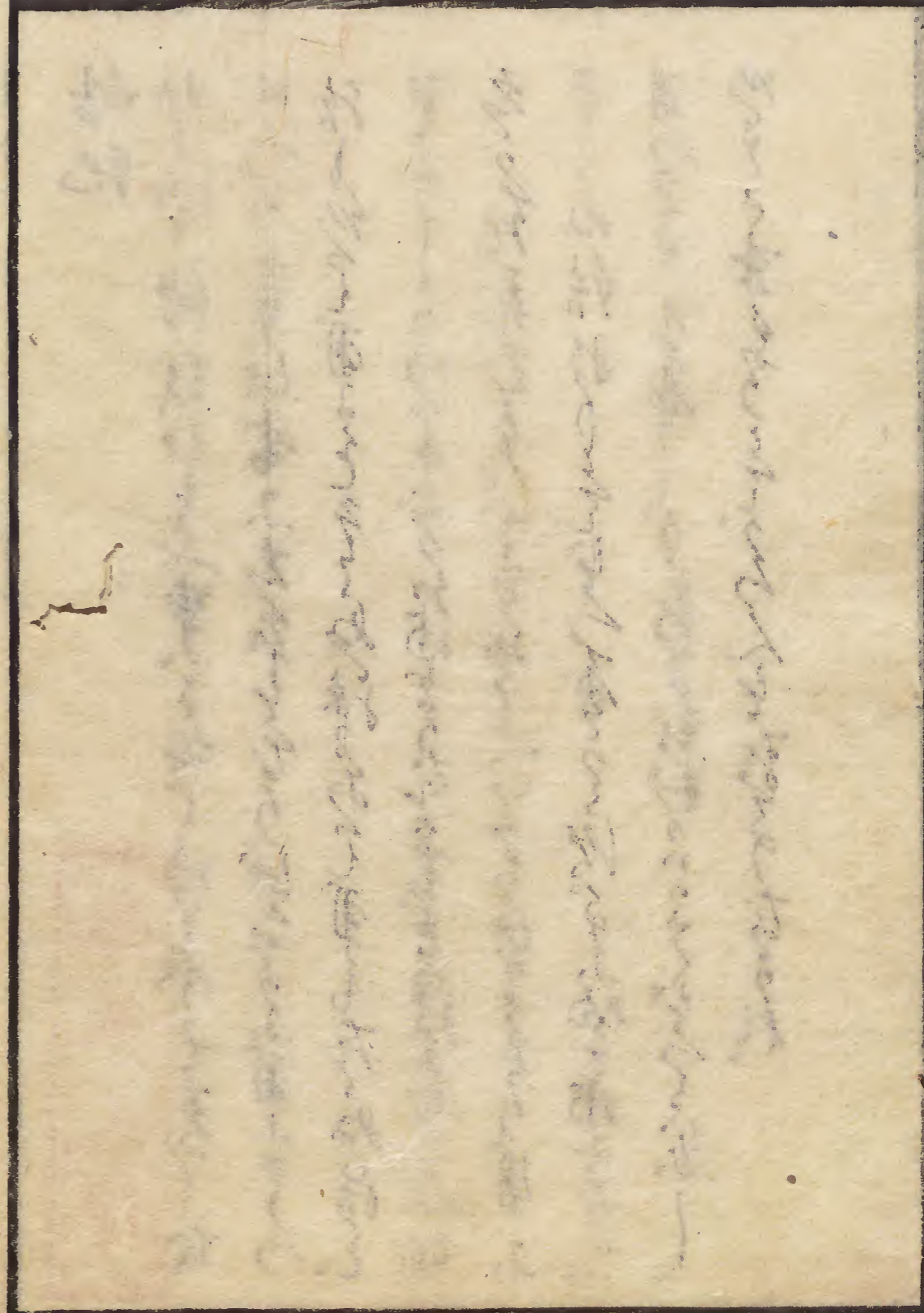
和書門	一五四九	二一三〇	二冊
類	九	〇	架
函	九	〇	號

諸禮雜儀

和書	一五四九	二一三〇	二冊
類	九	〇	架
函	九	〇	號

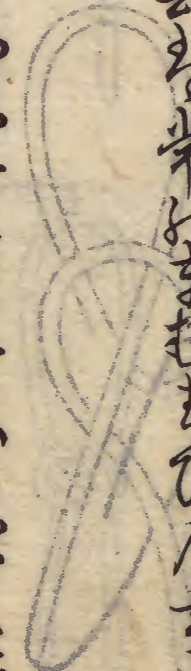
内閣文庫	番號	和 15499
	冊數	2 (2)
	函號	153 424





結の結び指図

一 六糸結び又六糸の結びと云を常結まむまひ乃事又
 玉むけびとも云

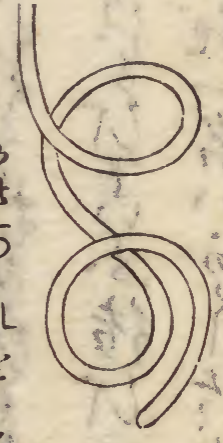


一 一かこかといふものたぐふわあをまむまひ乃事又
 一 端を右小糸渡す一をつと知れども云 又かこかとも云

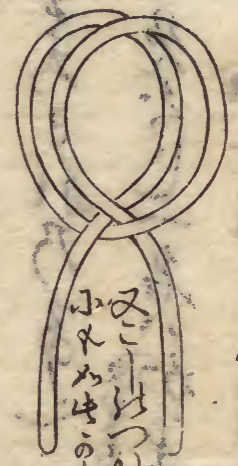
一 一まろくれといふはあ方小糸を流るをまむまひの之思ひ常
 人の志うたるむまびかこあう 又あかたとも云

一 一むむぢうむまびとも右のまろくれ乃事
 一 うはまびとも結び一名この免むし一名かむれ一名あわ

あわ一名ハの... 又一名かむれとも云むのち小山結の付不附のむけび



此二つを糸を二つに引つるを
を重ぬき下の圈はかくふ糸

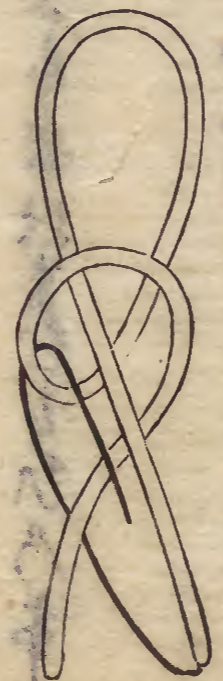
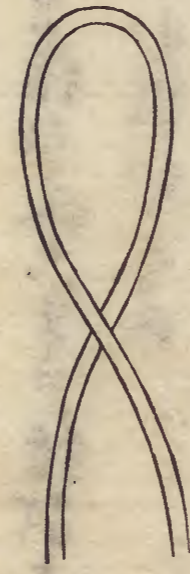


又こつれをちのえふ付る
小糸はのえはこ

一を重ぬきむゆびと云ハ極^カやらひなを結ぶ時ふし用をむゆび
松之下部の若し知りたる結びやう之左のボク

一ゆはちのふ

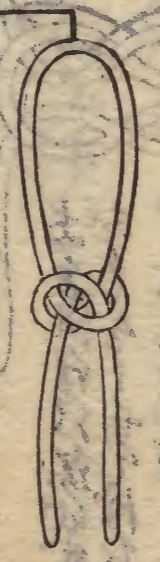
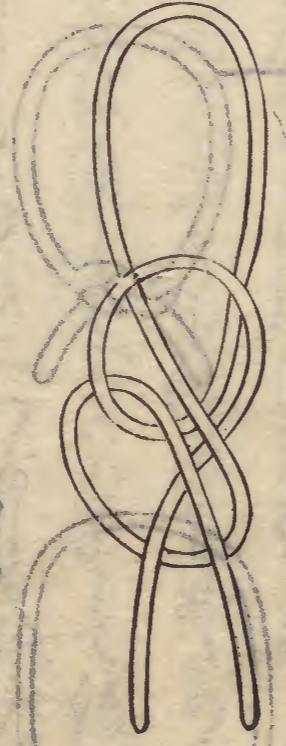
二ゆはちのふ



朱引のめく引通り

三 糸は糸引のボク引をせむはふ糸

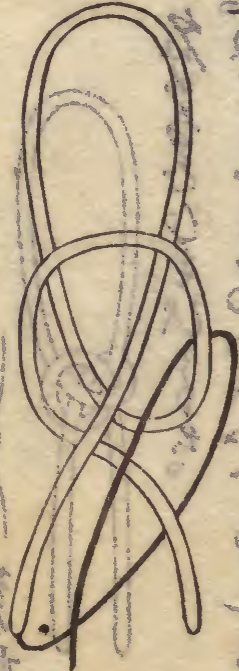
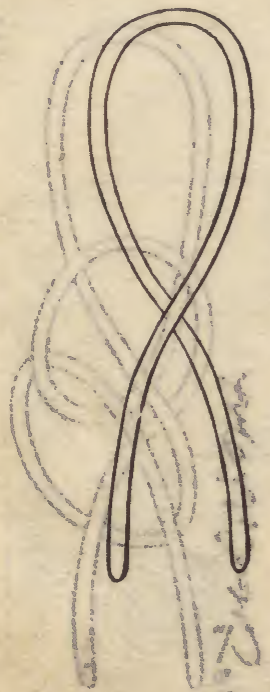
四 引をむねはふ糸

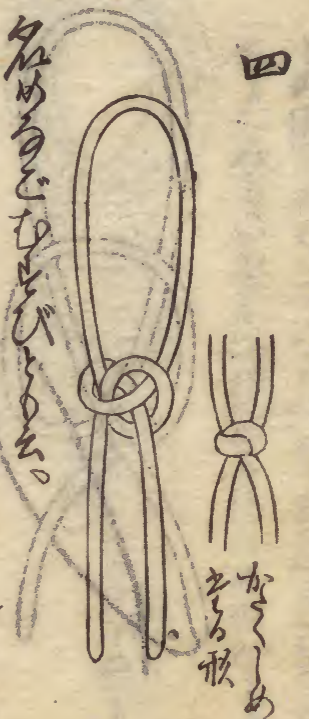
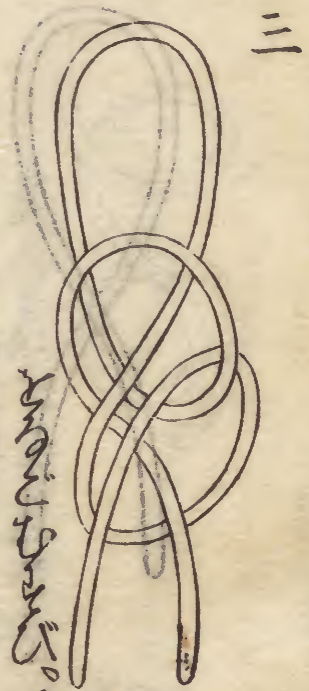


こつれ
とんね

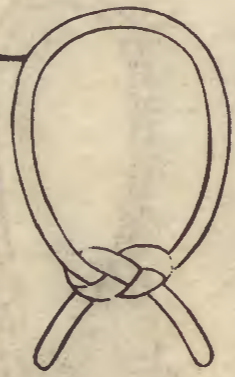
一名をゆ結を又まゆのらと云

一とらとむゆびハ松の押とむゆびとたわういふゆり一を重ぬき
糸たよりゆり男結を女結とむゆびとらむゆびとらむゆびとらむゆび





一 ひとむしびねむしびのこまむし結は鶴切入一巻ん法び
り紙くぐらせしおちもこむしむしに糸とちと直すなり
ふ丸はすいぬし。



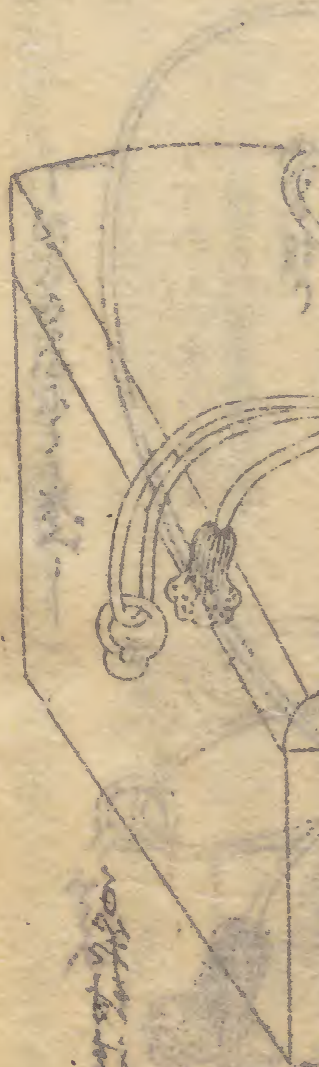
かむしむし結



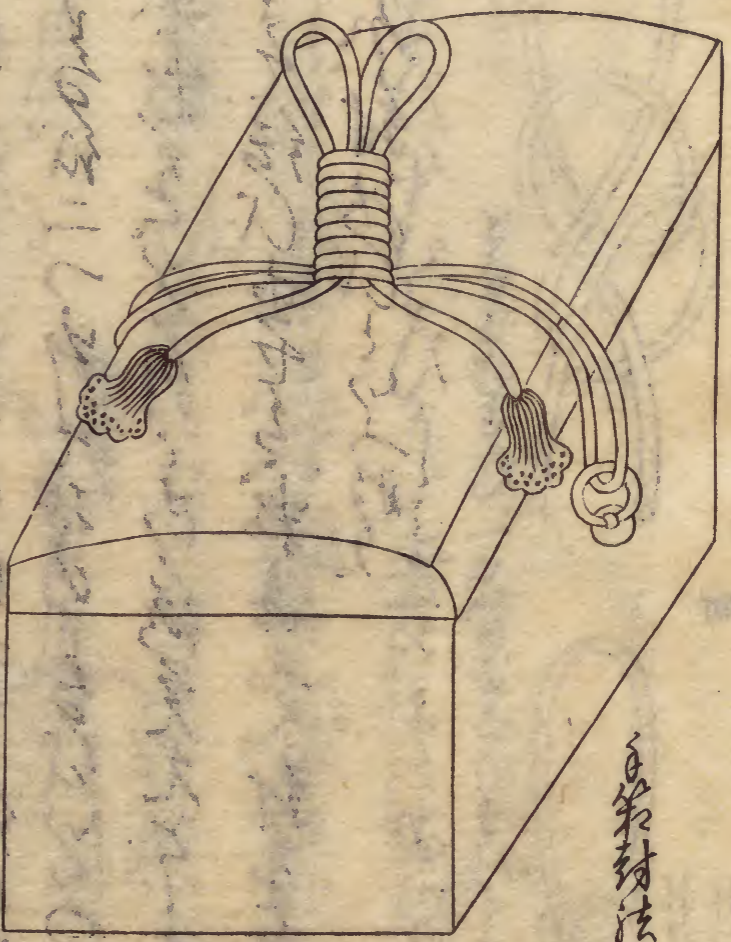
は方出ん

友方此結は鶴切入の
おくくぐらせしおちも
きんとすなり。

一 手箱の法法び紙封法を結びて手箱に結を一筋入
長七アお方山紙切しぬしのと紙おしそお方のくまん
ぬし紙通しそおのこまむし結たり結びやうよふはの
おくくぐらせし紙二つ出しておの目も紙いしつと巻きて
巻の巻紙をどくしつとあは紙ええとて巻を巻かふの
ふれとて結びおせをむしむし封をむしむし同ト
ふれとて結びとてしなり。



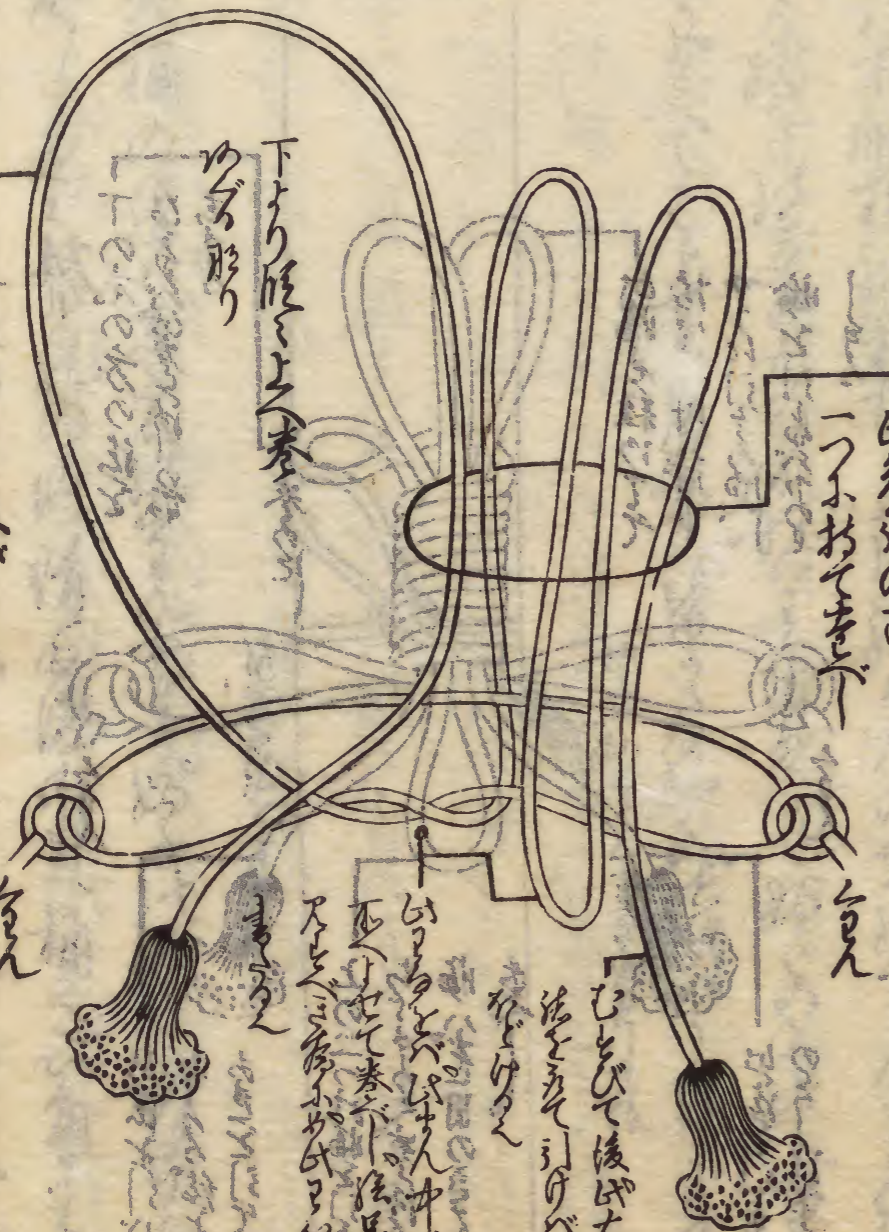
手箱の法



箱封法

ひまびね
丸の糸は
赤

結び中より先一むとびでねたの方れ徳ふ上へ目を二つ下へ
目を二つ下へねたの方の法よ六つ下へ二つ下へ一方はちの
一方はちの糸おさへ一方は巻庵



白糸引のむとび
一つおけてまき下

下よりねとびと巻
ゆが形り

一方の法よと巻下

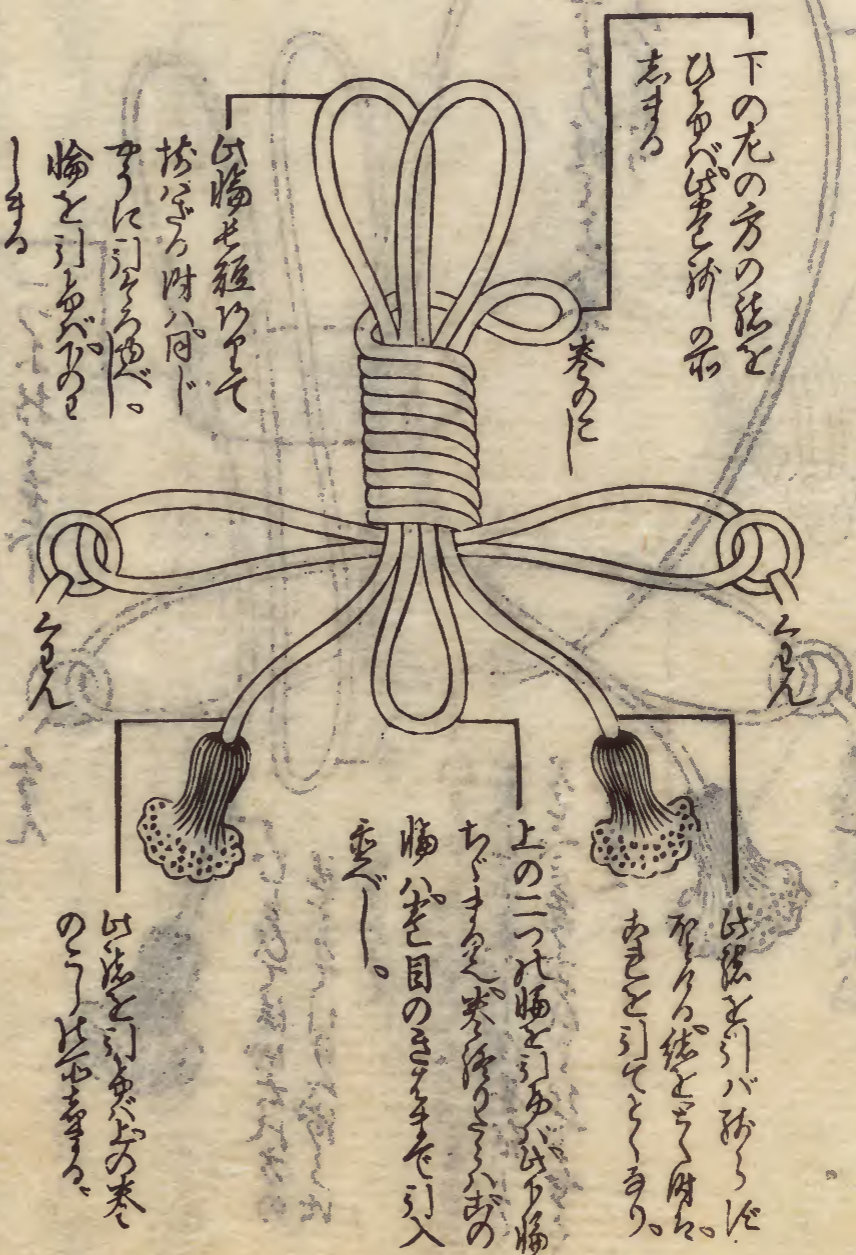
糸

糸

むとびて後ねた此方の
法をまき引の糸は赤
をひかへ

ひまびねと六ひまびね中れ糸の
まき下へねたの方の法よ六つ下へ二つ下へ
一方はちの糸おさへ一方は巻庵

此下より上巻めぐる



一文兼油物紐ねたを片法んたの方れんん中緒を一篇
解らぬとは方とちの方れんん中緒を一篇
解らぬとは方とちの方れんん中緒を一篇



一貝桶の法はあ方れんん中緒を一篇
解らぬとは方とちの方れんん中緒を一篇

「女の方よりするもの」

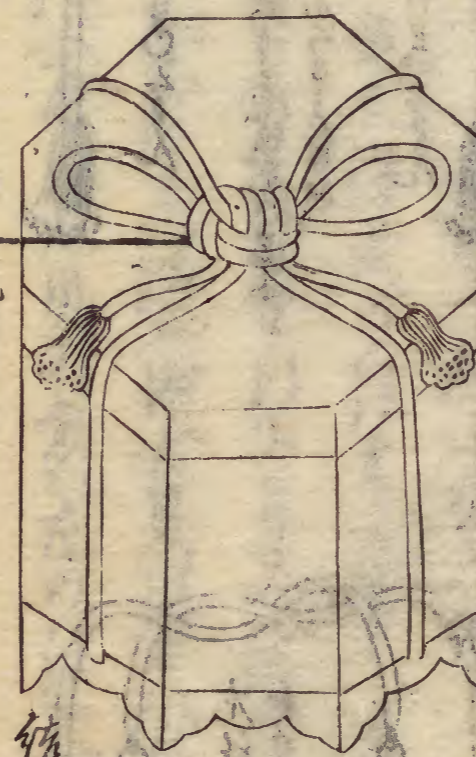
「女の方よりするもの」

右貝



女貝の飾り方の
法よりするもの

左貝



左貝の飾り方の
法よりするもの

丸の方よりするもの

結糸丸の圓の飾り

先づ

次



「結糸丸の圓の飾り」
は、丸の方よりするもの
の法よりするもの

是左貝の飾り
方にも是右貝
の飾り方と
同様に
するもの

女の方よりするもの

一 女の方よりするもの
二 女の方よりするもの
三 女の方よりするもの
四 女の方よりするもの
五 女の方よりするもの
六 女の方よりするもの
七 女の方よりするもの
八 女の方よりするもの
九 女の方よりするもの
十 女の方よりするもの

一 巻二の形は、右の如き。巻を結ぶの下手方には、
 下へは、
 掛流は、三幅、
 巻の形は、
 結流は、
 龍古中と云ふは、
 古今和歌集巻二

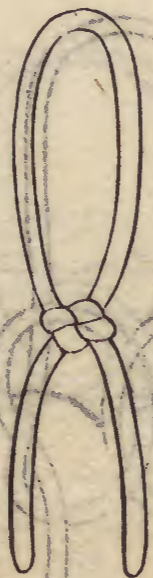


巻の形は、右の如き。

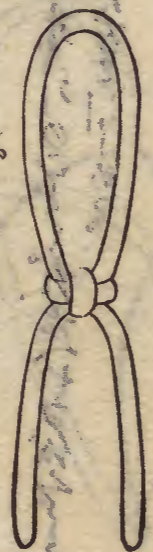
懸流の流は、
 龍古中と云ふは、
 古今和歌集巻二

一 一のり結むる結

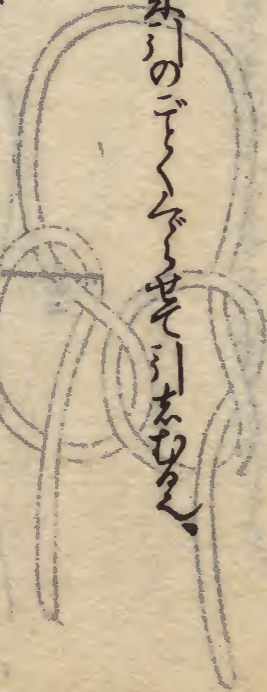
表



表ハ、
 裏ハ、

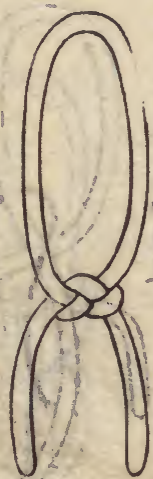


裏ハ、

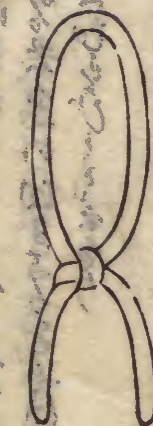


一 五のり結むる結

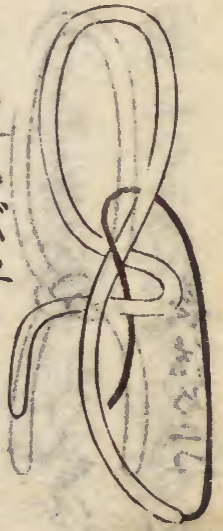
表



表結むる

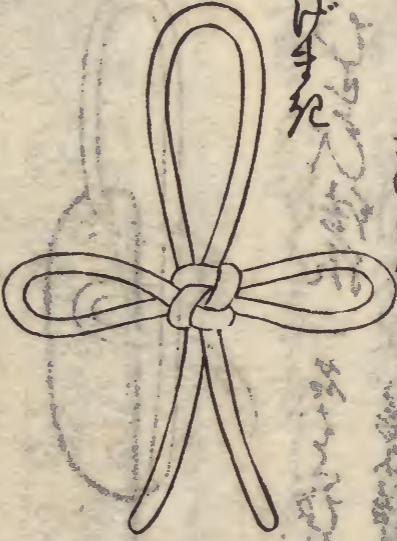


裏結むる



一 阿比し結むとびね

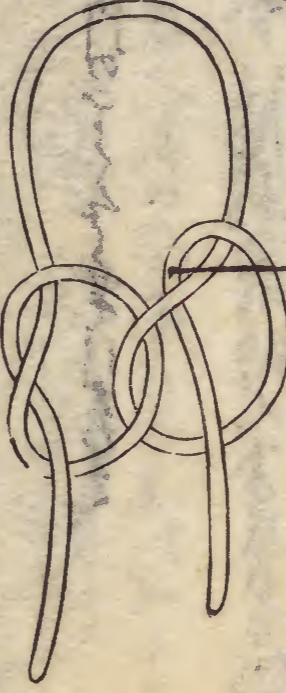
結びね世帯のこころを引ひき
たしある糸の切色うらとせいでひきひき
ゆきしむとびねもなる



阿比し結むとびね

結びねの氏

け結びねをたのふとせす
糸の糸はこころ



け方引ね

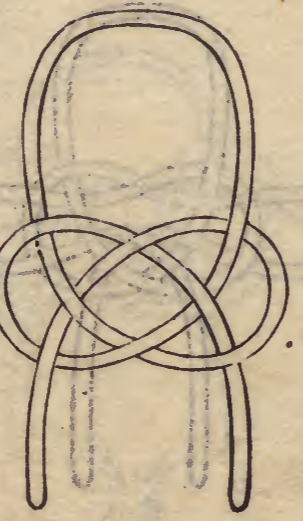
け糸引のこころ。たふらねをせと
たふらねのこころ

阿比し結むとびねのこころは
たふらねのこころ

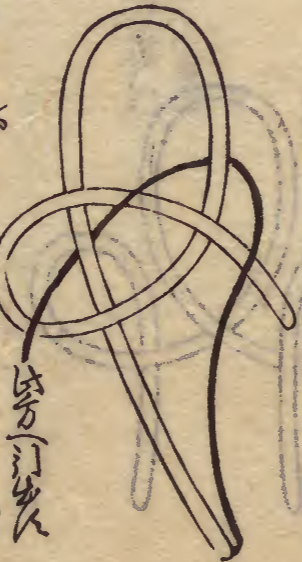
け方引ね

一 わたし結むとびね

二糸の糸糸引のこころは
たふらねのこころ



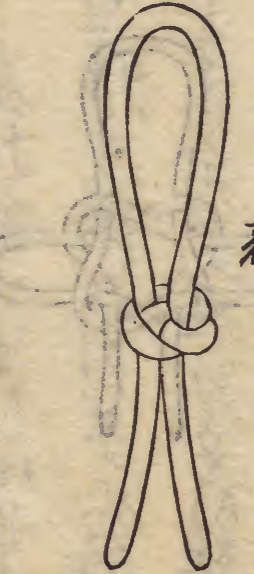
結びねのこころは
たふらねのこころ



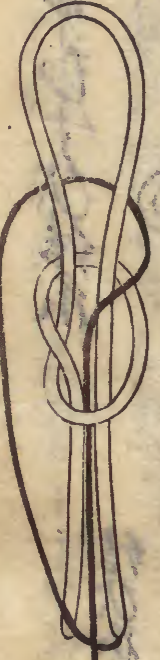
け方引ね

一 阿比し結むとびね

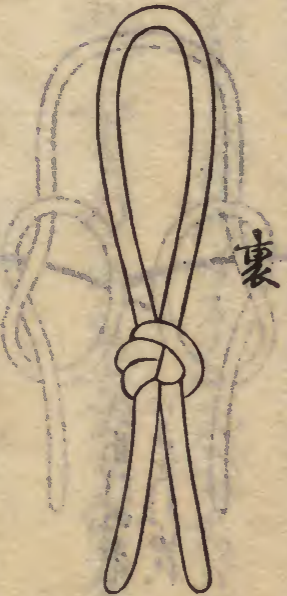
是とあつらむとびねのこころは
たふらねのこころ



表



け糸引のこころ



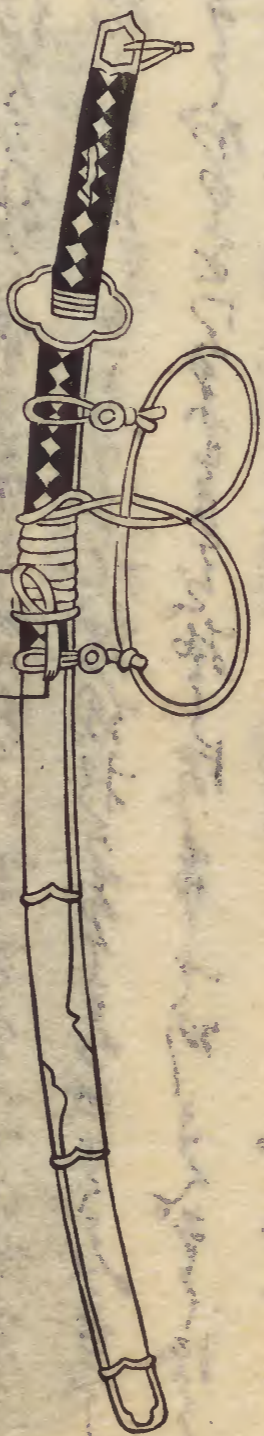
裏

さくばくふゆさ先と門あしり



先と門あしり

布のゆえんがらう。雲のうがらう。あてをえん。後の柄紙かき



あてをえん

あてをえん

たてふとも。あしり巻紙のたて

先と門あしり



あしり巻紙のたて

一 忍びのちゆけは流るるまのあそびに結をたぢくしりてけく
ゆづりの下を結をりしそゆ流るる風也

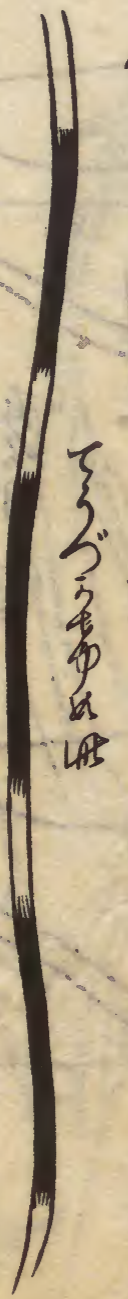
あつてさうさうとて又身の流廻るる
忍びのちゆけは流るるまのあそびに結をたぢくしりてけく
ゆづりの下を結をりしそゆ流るる風也

は忍びのちゆけは流るるまのあそびに結をたぢくしりてけく
ゆづりの下を結をりしそゆ流るる風也



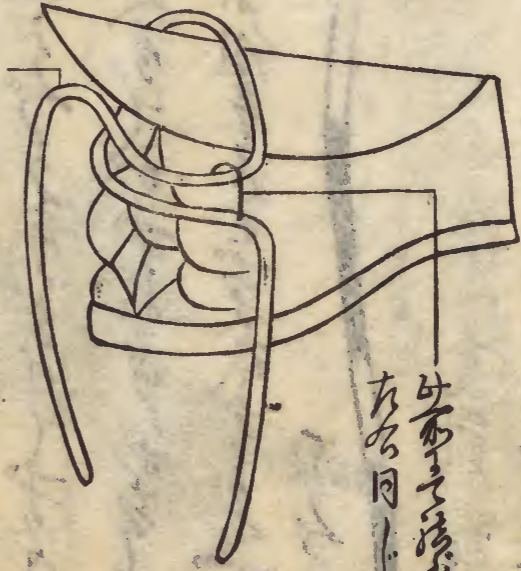
あつてさうさうとて又身の流廻るる
忍びのちゆけは流るるまのあそびに結をたぢくしりてけく
ゆづりの下を結をりしそゆ流るる風也

古の忍びのちゆけは流るるまのあそびに結をたぢくしりてけく
ゆづりの下を結をりしそゆ流るる風也
あつてさうさうとて又身の流廻るる
忍びのちゆけは流るるまのあそびに結をたぢくしりてけく
ゆづりの下を結をりしそゆ流るる風也
あつてさうさうとて又身の流廻るる
忍びのちゆけは流るるまのあそびに結をたぢくしりてけく
ゆづりの下を結をりしそゆ流るる風也
あつてさうさうとて又身の流廻るる
忍びのちゆけは流るるまのあそびに結をたぢくしりてけく
ゆづりの下を結をりしそゆ流るる風也



あつてさうさうとて又身の流廻るる
忍びのちゆけは流るるまのあそびに結をたぢくしりてけく
ゆづりの下を結をりしそゆ流るる風也

丸太りのふ二紐のなるもの。



丸太りのふ二紐のなるもの。

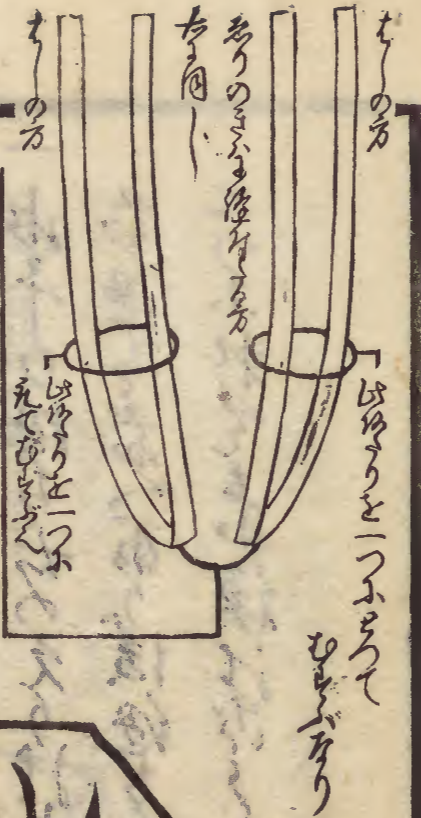


丸太りのふ二紐のなるもの。

丸太りのふ二紐のなるもの。

丸太りのふ二紐のなるもの。

一糸襖の紐結法。二つふおてづらの西紙拵。一結びのり。まて
むらぎ。地のづら。紐をさへり。ふなるもの。



丸太りの紐の結法。二つふおてづらの西紙拵。一結びのり。まて
むらぎ。地のづら。紐をさへり。ふなるもの。

青
銅
片

青
銅
片

一裏方れむもも海ら素後れびぐく華むむびやうを
同ト奉也。

一印ト重密の海に結法く法海ハ素後不同ト。

一長絹の海に結く。單重密不同ト。結法ハ素後不同ト。

左右ノ紐ヲ長絹ノトコロへ引入レ。長絹ノトコロノ内ニテ。左右ノ紐ヲトリ
違ヘテ。首ノウシロヲ引廻シ。前ニトリ。長絹ノ左右ノ脇ヨリ引出シ。左右
ヲ取合テ。モロワナニムスブナリ。

一水中の海ら右のえりけよそ。あ海と後海と打差すらびやうを
あ海らあへ取り。後紐ら取り。此後取廻してあへ取り。是を
二つおそ。素後れびぐくむむびやう



風折る海

おそをりあひりて
あへ取りあひりて
あへ取りあひりて

キクトナリ

包
詰
記

四十五

軍
函
定
成
反

後腰ハ修のあり
れのみまより
なり



後腰を修す

若池

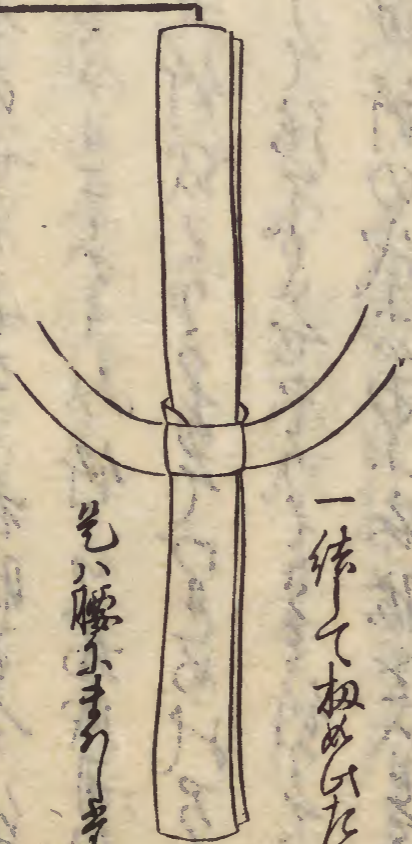
此の若池の紐を引くはちかた

一 変置の時修の後腰の紐を引く。後腰の紐は並り。若池
あき一法して又一法する。世に修をたしむるははき屋一
法する。不法して結めり。とさう修をたしむるは、若池の紐と

袴とのり引き。或はなもむらぐせで結びめ紙巻と
置屋。

一 結てぬめいたくむらびふらる也

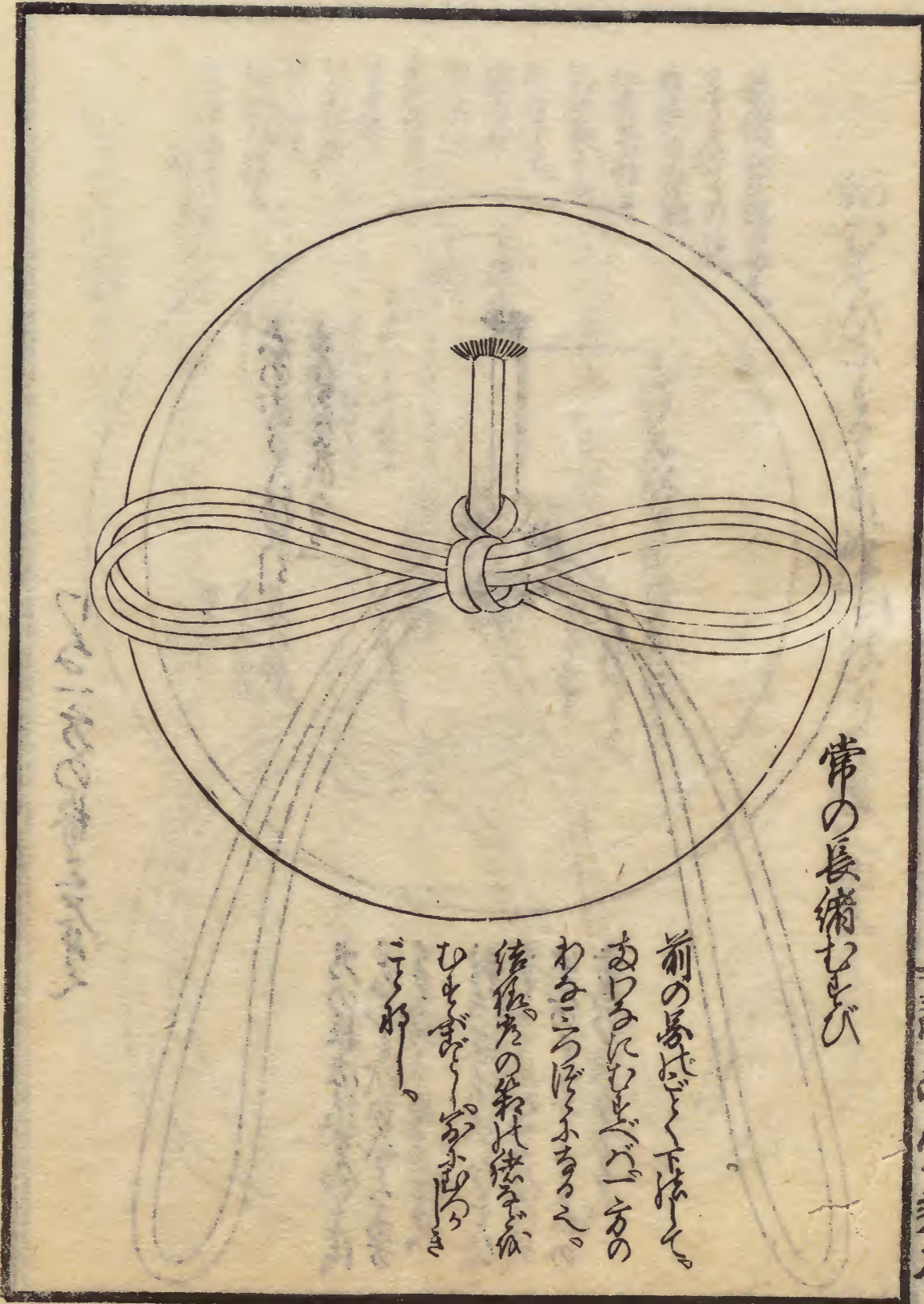
是ハ腰ふまりきる変丸太目



是を下さげつ小きし法めと
修とのり引きすしより
下しつむむらぐせ修め

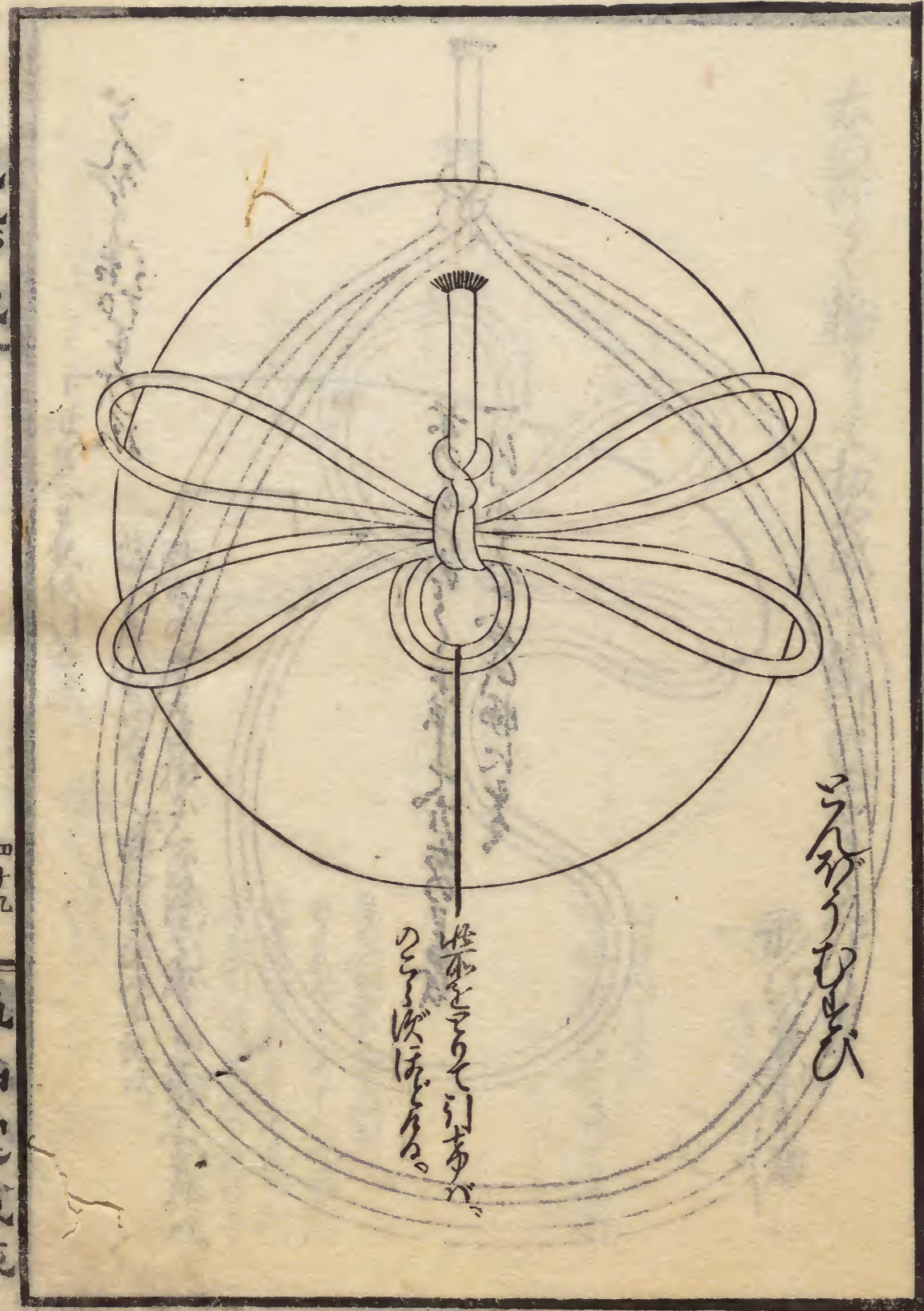


巻のりありは
若池結めの上修する也



常の長緒むすび

前の家だてく下法と
ありふれたむすびの
わきごころばふさつと。
信長がのちれ結ぶか
むすびのむすび
三つ



常の長緒むすび

性本をきりて引あが
のこすはほむら。

とんがう結びまび板



糸の束はだうく下法して左方の足が
一引ふまうそが糸悔にまら。

左のぶとく輪をして板あひて糸引のどやうくせせ。

形はちねと座。



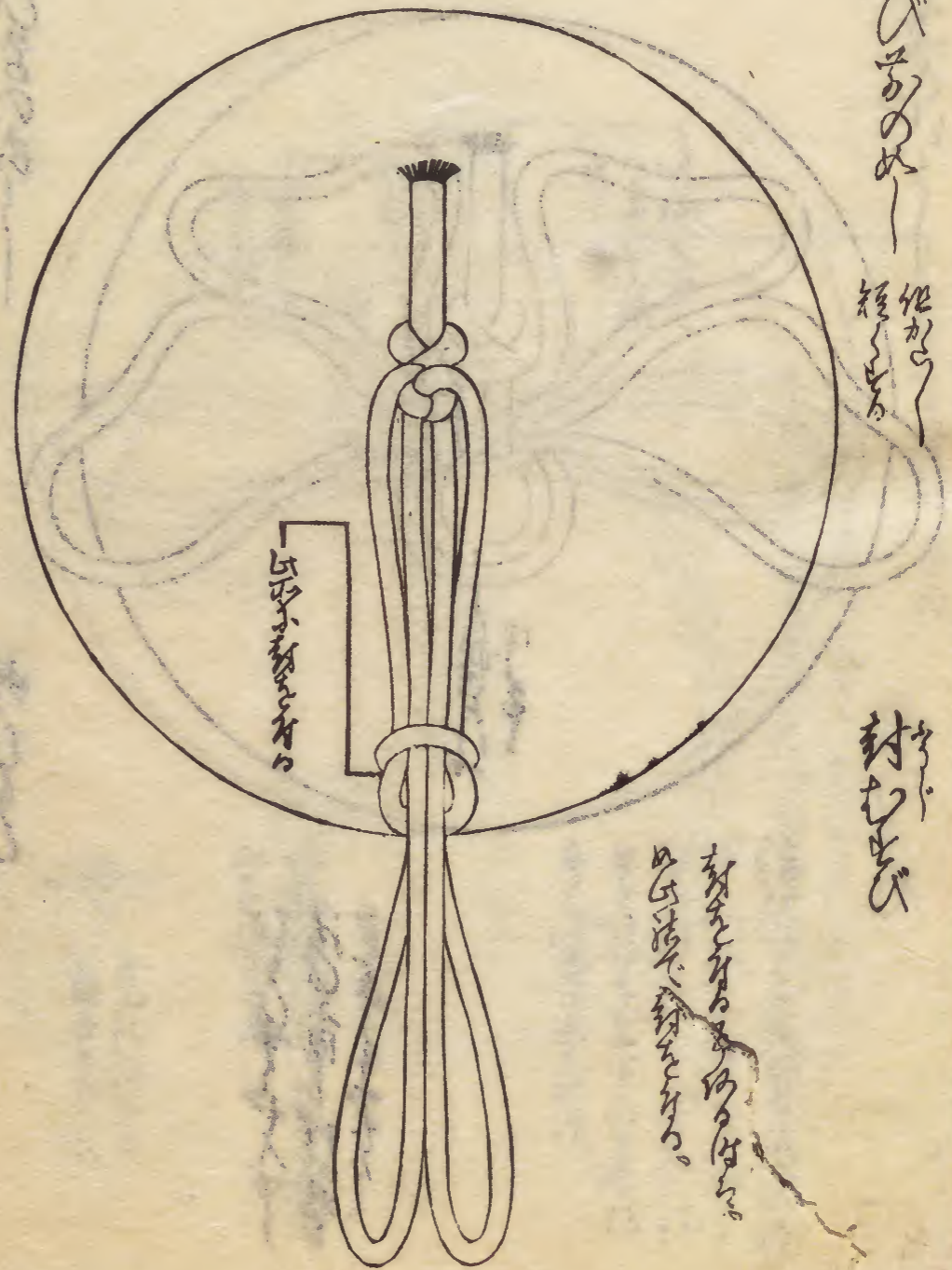
此糸の重子板ふんははるる
編むまびふるる之編むまび
此糸の重子板ふんははるる
編むまびふるる之編むまび
此糸の重子板ふんははるる
編むまびふるる之編むまび

下法びあのみ

他かろ
経くさ

封むさび

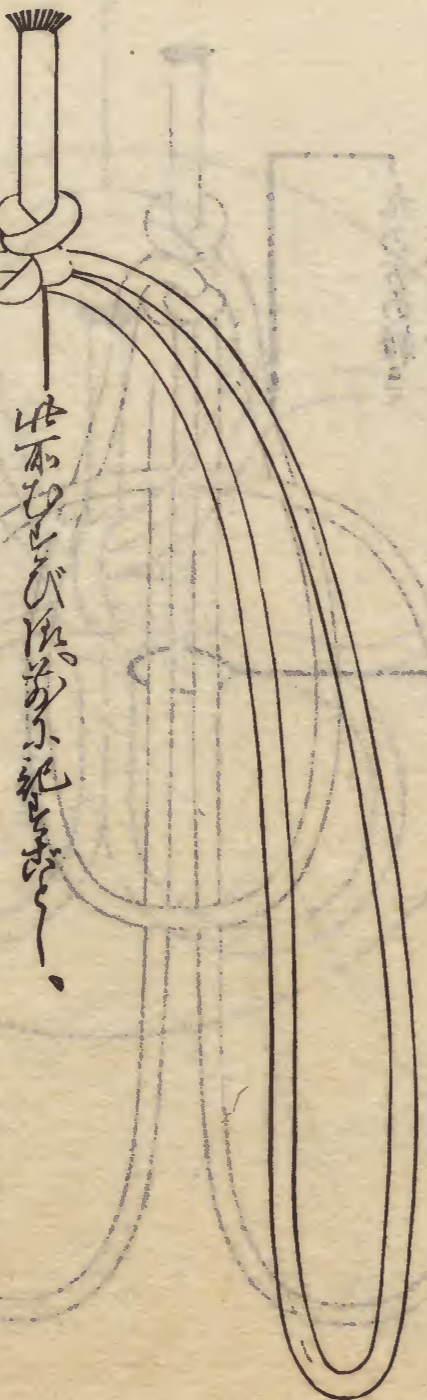
封むさび
のし法を
封むさび



封むさびの
し法を

封むさび結法。先あのだく下法して丸の方けりさどなれは
みどかくとん

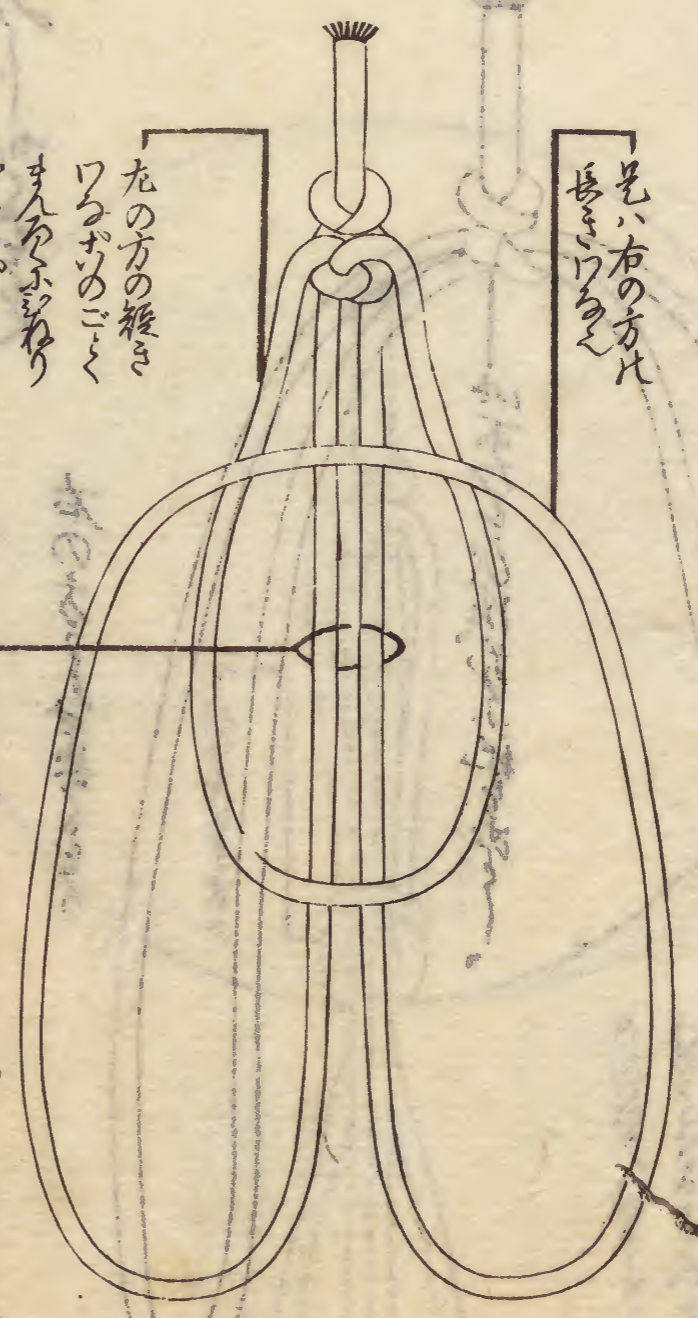
右の方より長くする



封むさびの
し法を

丸のかきけりさ
経くさ

右にさく下法にて、板は流して、糸のさく、印記出次
履し。



是、右の方、
長き、つらき

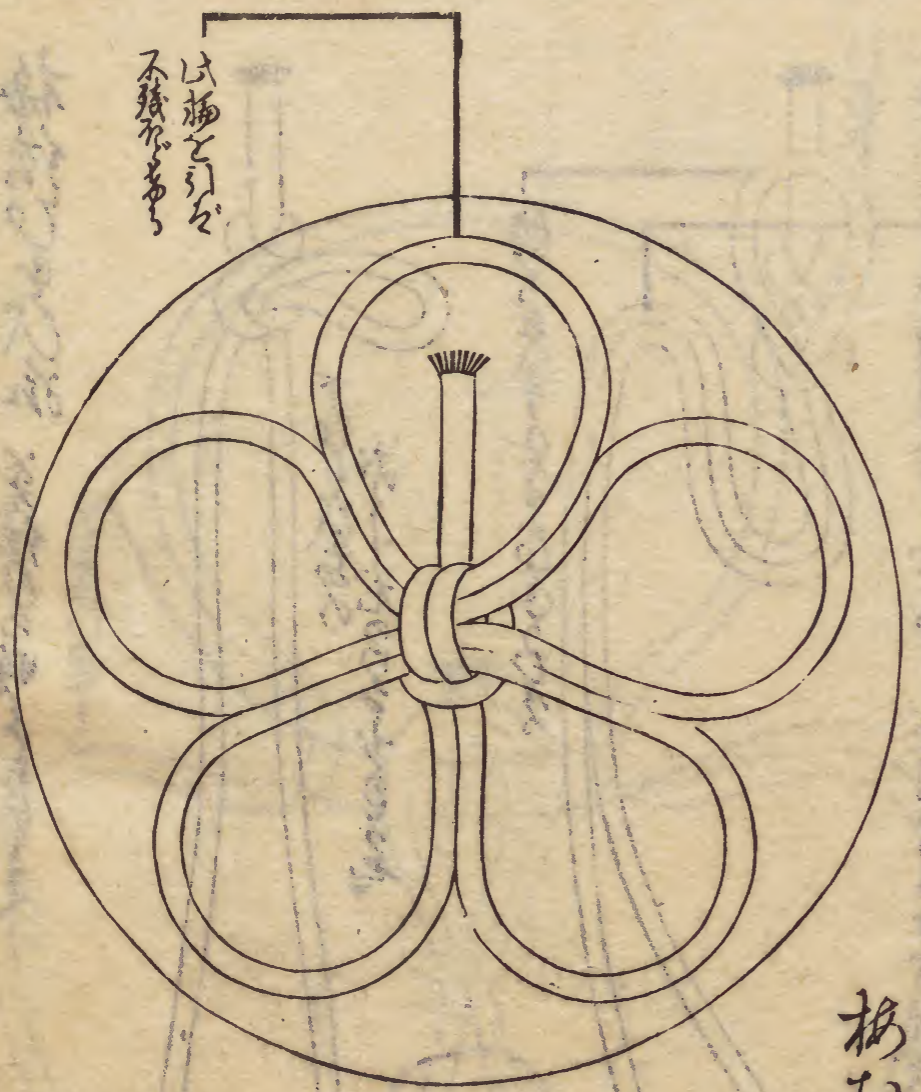
左の方の、
つらき、の、
ま、ん、な、ふ、り、
む、け、る。

は、二、筋、と、一、つ、小、布、と、流、し、の、糸、
引、出、す、一、引、内、の、糸、の、方、引、一、

下むきびきのさく

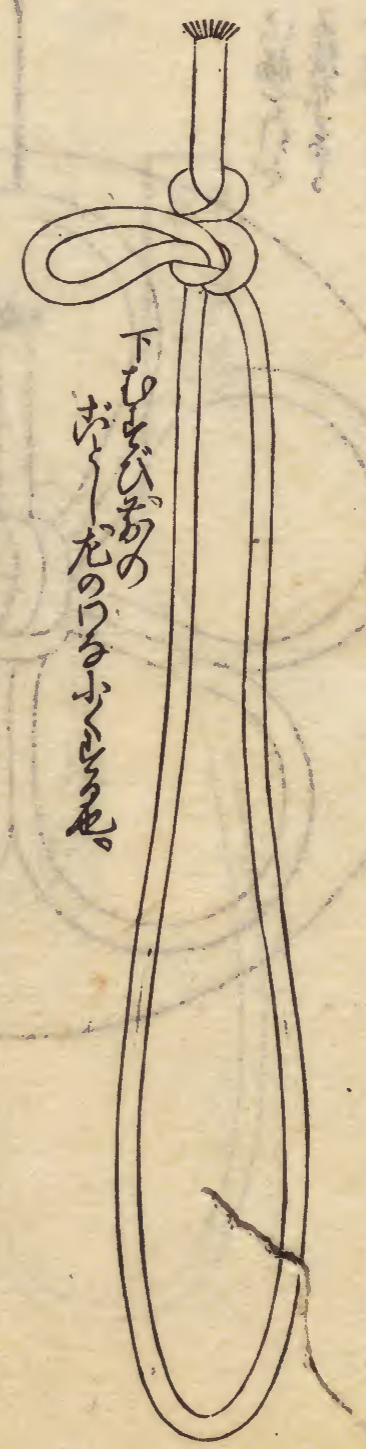
他、か、く、流、し、の、

梅むき



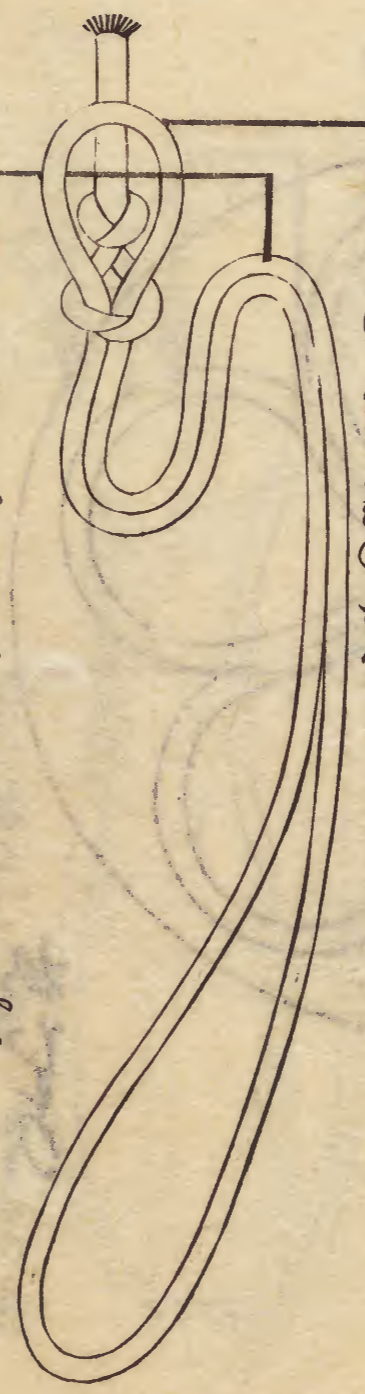
は、極、を、引、を、
不、残、を、も、

梅結ひびね 兼結ひの時とひびね



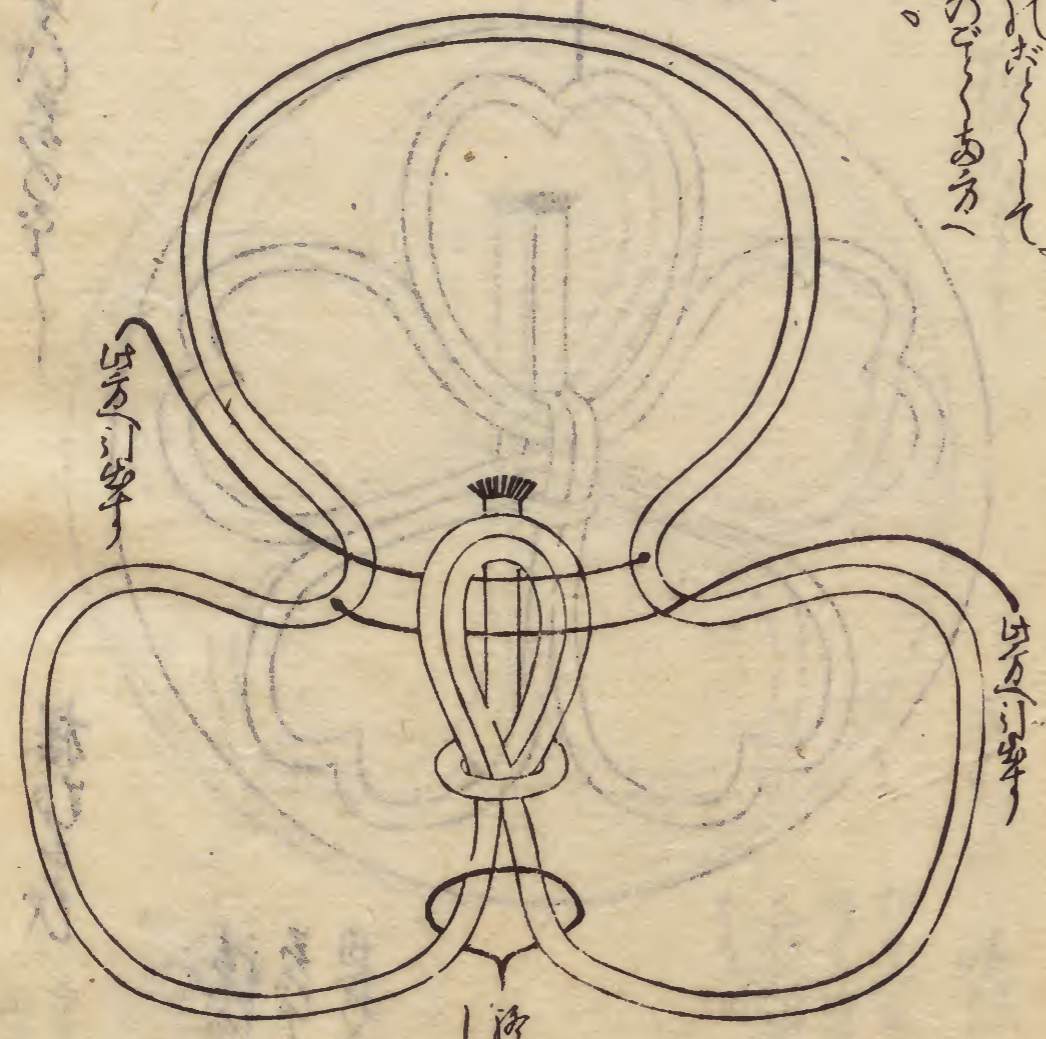
下ひびねの
おとろのつるふらふら

ひびねのつるふらふら



は兼結のつるふらふらとに引きておとろのつるふらふら
おとろのつるふらふら

ちの糸はだくし
ひびねのつるふらふら
ひびね



ひびね

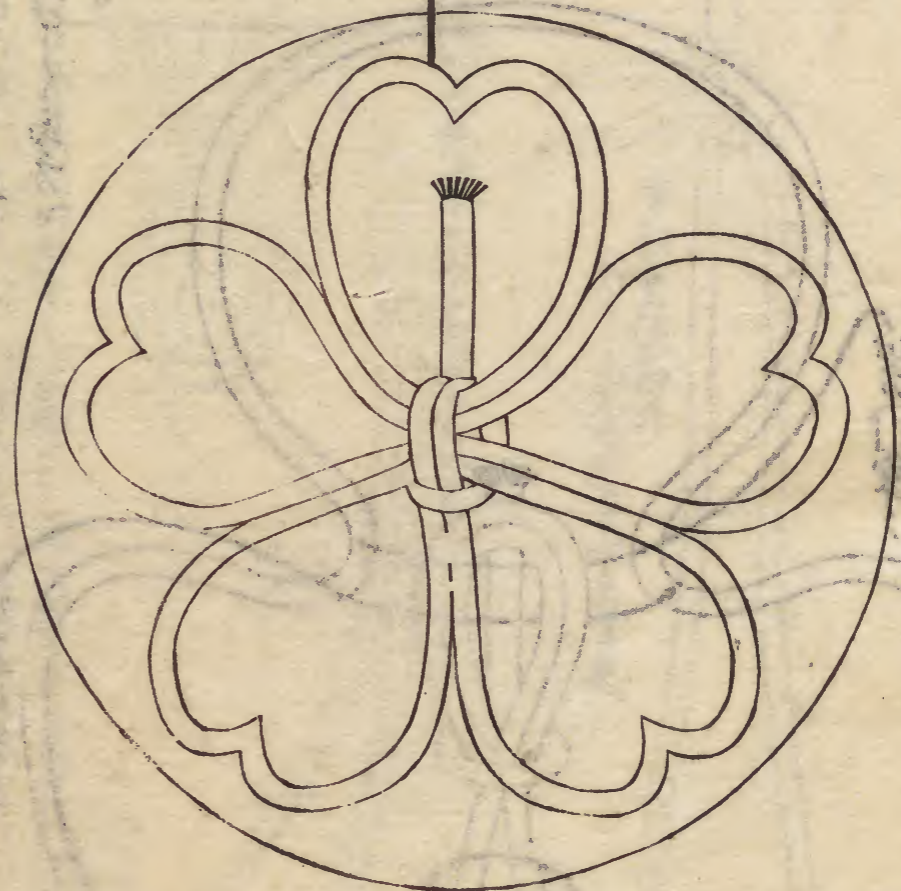
ひびね

ひびね

下むしびあのごとく

桜むしび

は
胸を
引か
せ
る



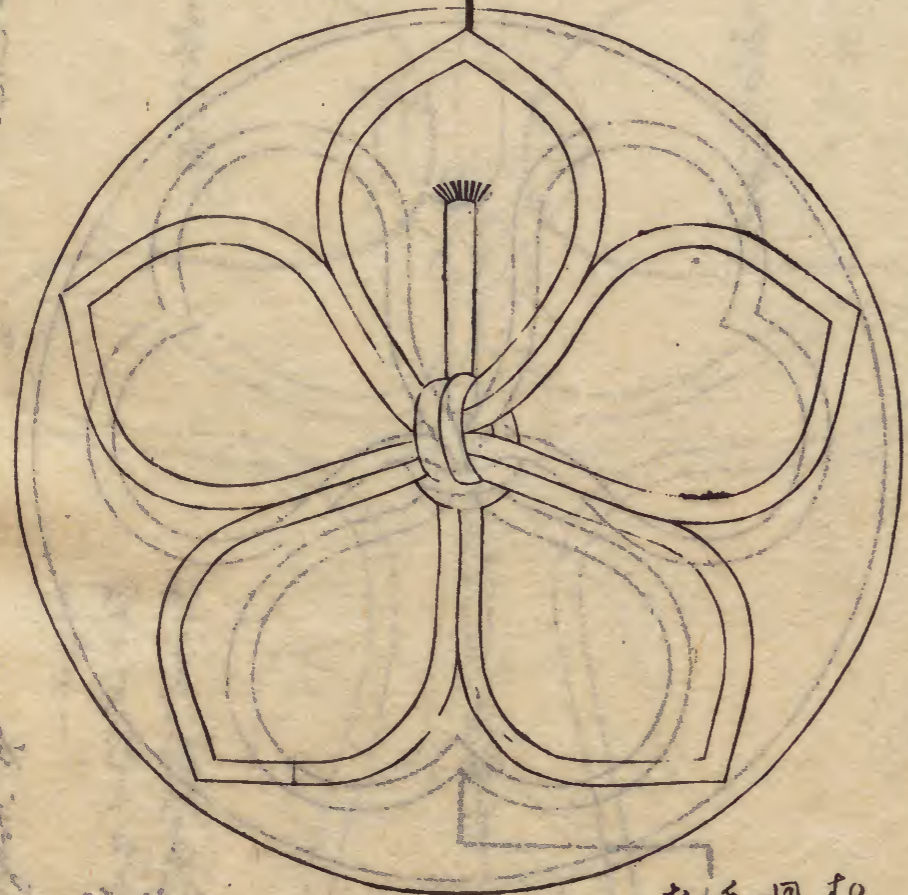
法依
折法
不
同
に
あ
る
む
し
び
の
先
紙
が
成
る
内
折
入
り
ま
す
の
ま
じ
り
に

下
結
び
あ
の
ご
と
く

き
ち
の
う
結
び

む
し
び
や
う
、
桜
結
不
同
ト
、
あ
ら
び
の
先
紙
を
折
入
り
ま
す
の
ま
じ
り
に
な
る

は
胸を
引か
せ
る



ま
じ
り
の
先
紙
を
折
入
り
ま
す
の
ま
じ
り
に
な
る
桜
結
不
同
ト
、
あ
ら
び
の
先
紙
を
折
入
り
ま
す
の
ま
じ
り
に
な
る

下結初のむ

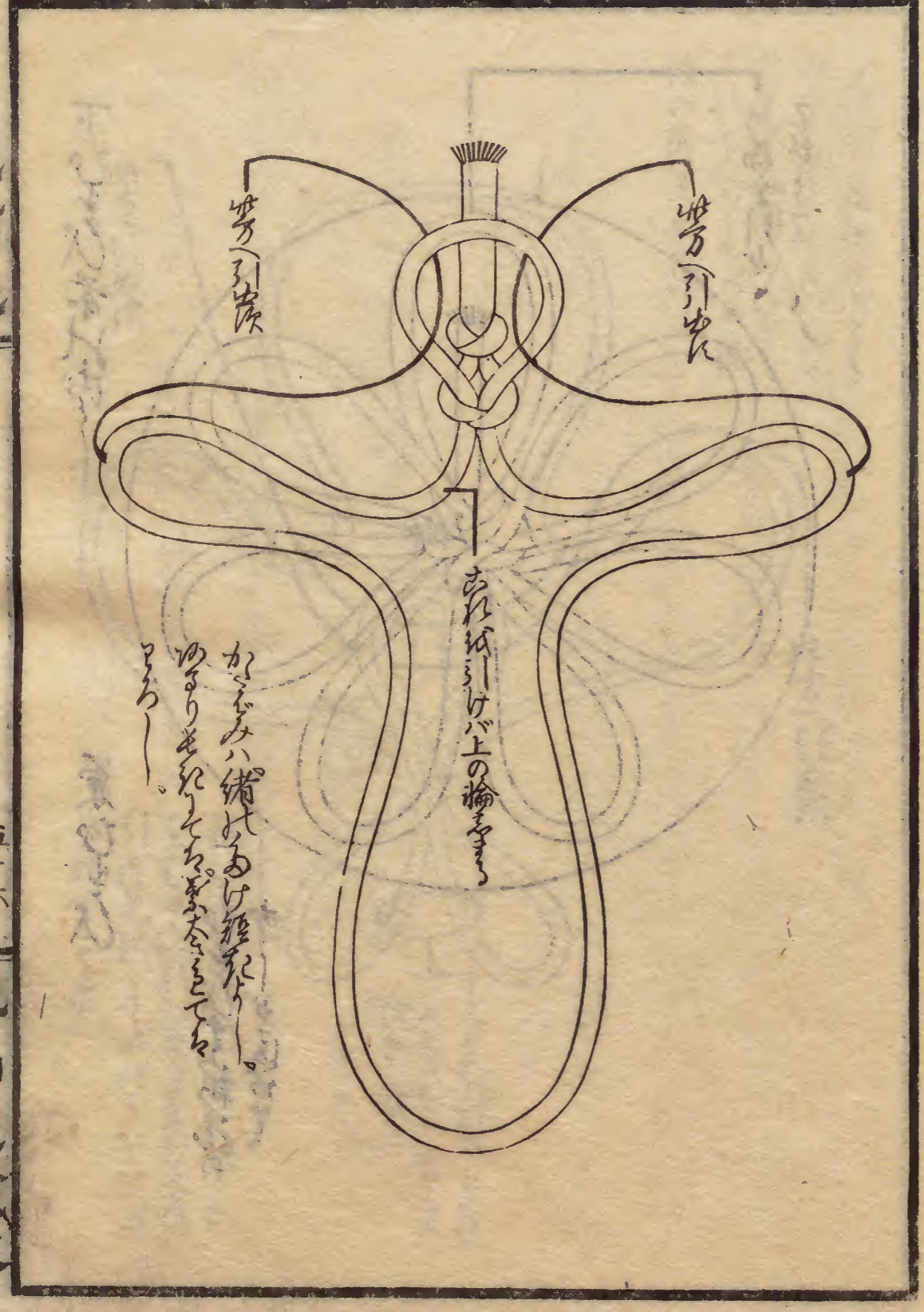


かきみ結

むとびね。柄結不
似たり。佐々運を
流の易のむ。

葉の先付内の方
折入。

は福といはる所
をける。



あねね引け

あねね引け

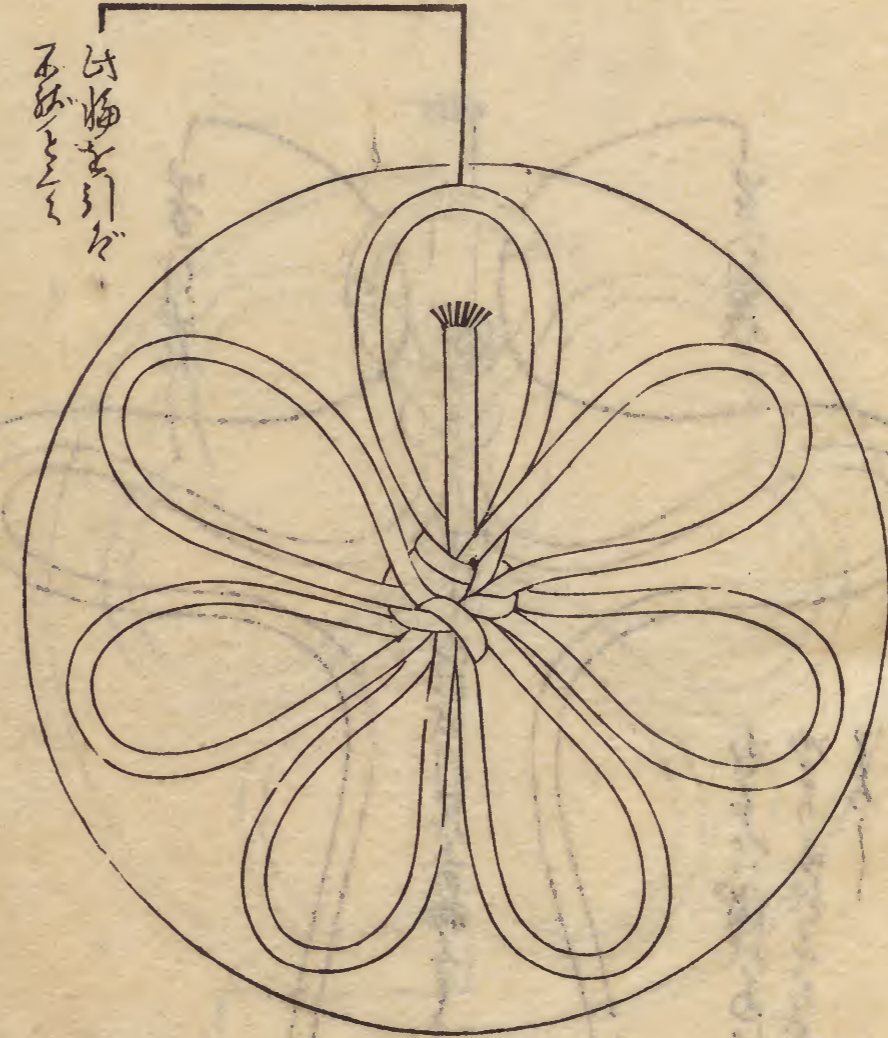
あねね引け上の輪を

かきみ六緒はあけ難なり。
あねね引けとて。葉をよとて
る。

下むらび糸は

兼むらび

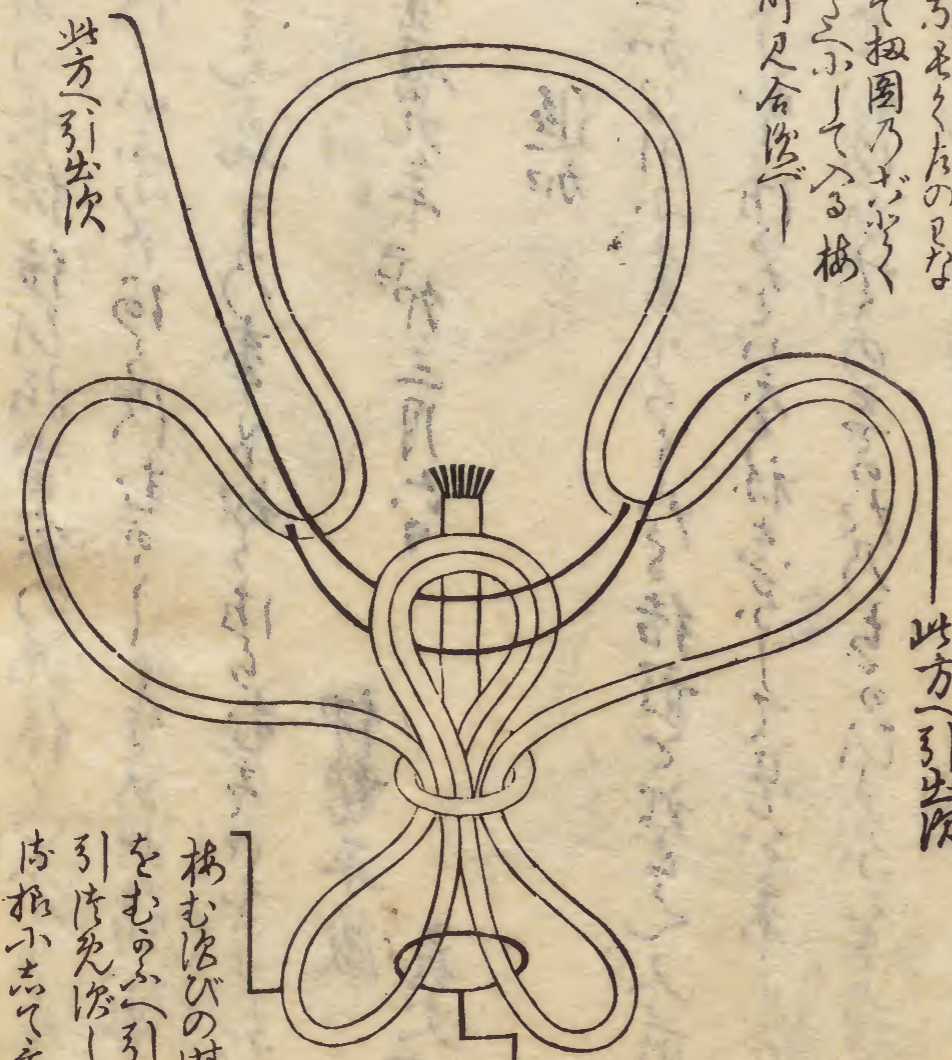
むらび糸は梅結の
かゝり送る也。



は梅を引が
玉糸と云

下結ハ梅結のおと
右のよかそくたの目な
小まきや相圖乃ぶら
りれあふふして入る梅
結の所見合は

此方引出次



此方引出次

梅むらびの時ハ亦乃二つの目な
をむらび引つ免る兼むらびハ
引免免落して此目ハ二つあ
り振ふと云

此を引や上の結
志まき並小是ハ花
びら不來る

新言
青幽堂
片

右袋の長緒結び指當家の流儀と云ふもあはれ又他家は
流儀といふも何れも此結ふ事世に人の手
次ささるやうに事を知らむをいふ事なり

宝曆九年 己卯三月六日

伊勢平蔵

貞文

弔

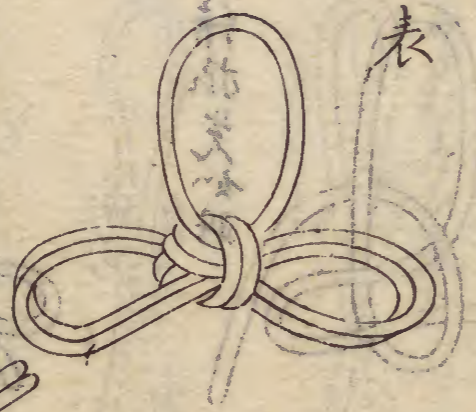
追加

一此追加の前不書もらうたる結形と記さる又前不記たる事
も妻から結をばなす結とて是を妻といふ又一つ結を
なれむはびやうのまのた乃ちのひらふをいふも前不記
此追加の記たる事をばあ方引合せアア

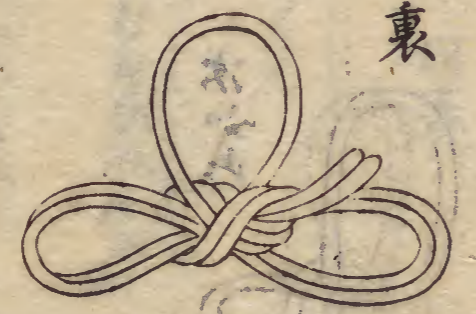
一真のえんがうむほび

はる竿のせま口不付の結なり

表

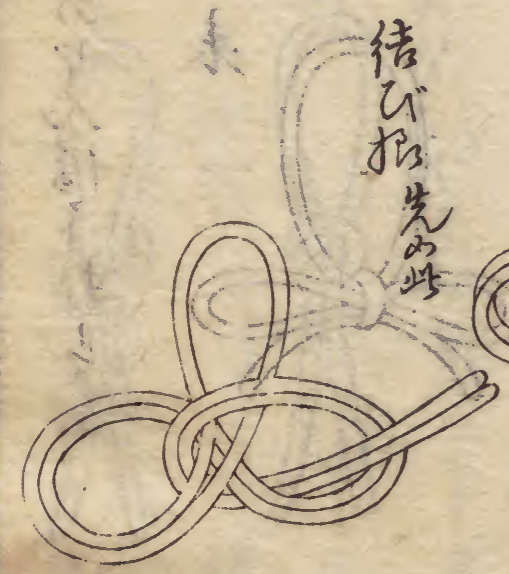


裏



又さういふ年小はなまをい付
はる竿のせまの一名をいふ
むら結といふなり

結び指 先の此



次ふ此



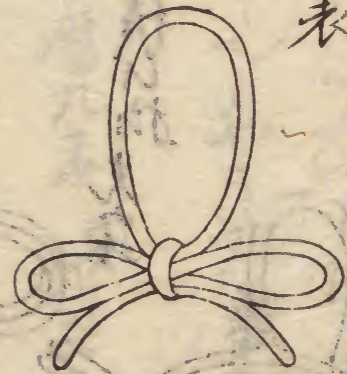
此糸引の如く
通し東の
引通しなる

此糸引の方にて裏の図の如きなり

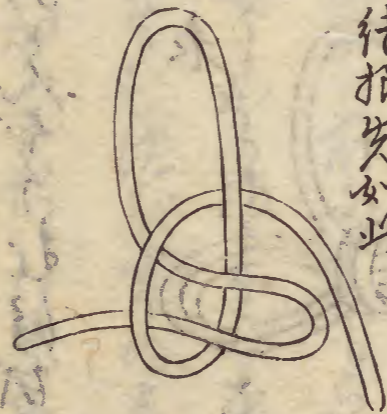
結言記
五十八
華山堂

一草のやんぼうむらび

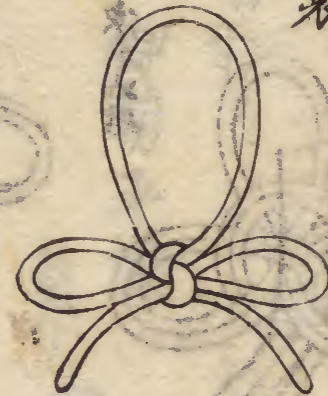
表



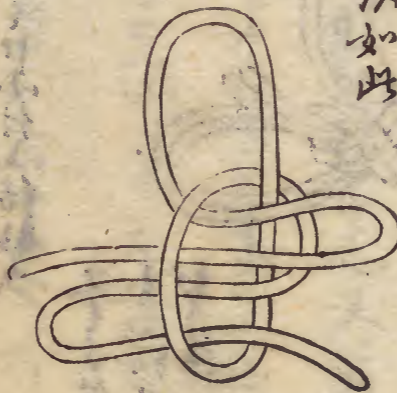
結振先如此



裏



次如此



此結を草小つ。

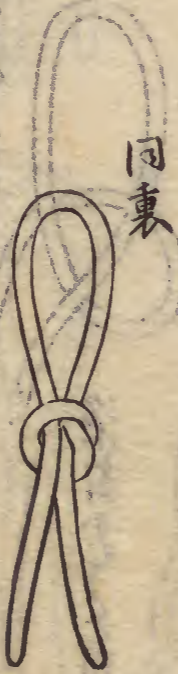
一片むらび

一名おれむらび

右のむらび表



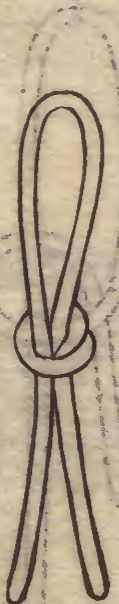
同裏



左のむらび表



同裏



むらび振如此



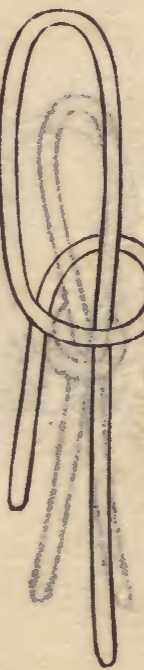
一 諸むすび

是ハ前小記ナリ男むすびニ替事ナリ
然ルモ結びヤウの志ヨク少クモ有ル也

表裏同ト

結びヤウ

此朱引の通小引通也



水干むすびの袖下小引通也

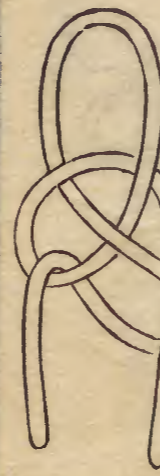
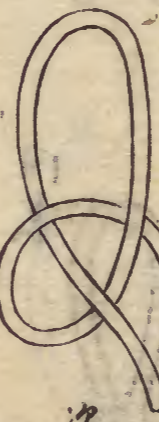
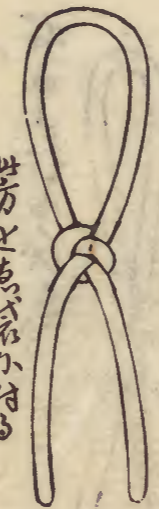
一 名のむすび

是ハ前小記ナリ男むすびニ替事ナリ
然ルモ結びヤウの志ヨク少クモ有ル也

表裏同ト

結び推先如此

此如小引通也



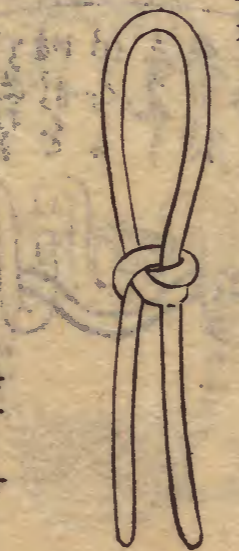
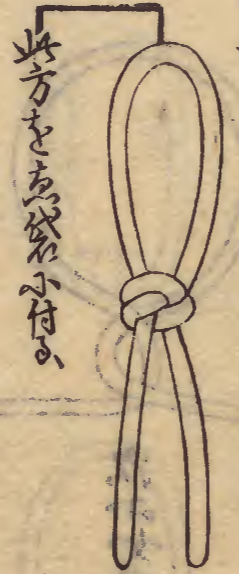
名のむすび一名がらむすび又名の目とも云

一 一うだぐら

是ハ前小記ナリ男むすびニ替事ナリ
然ルモ結びヤウの志ヨク少クモ有ル也

表

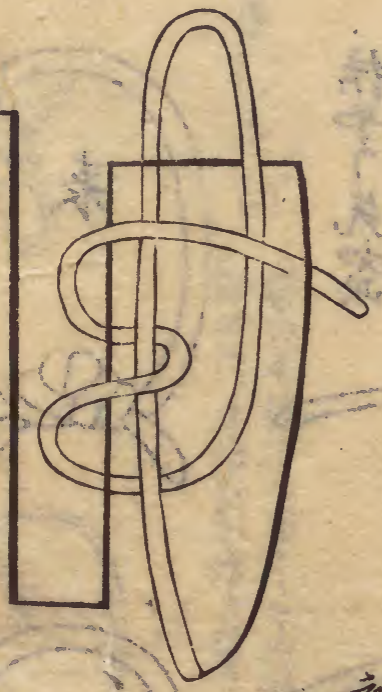
裏



此方を志袋小付也

志袋の図

此所の結びの首



此朱引の志袋通一引通也

此所の結びの首

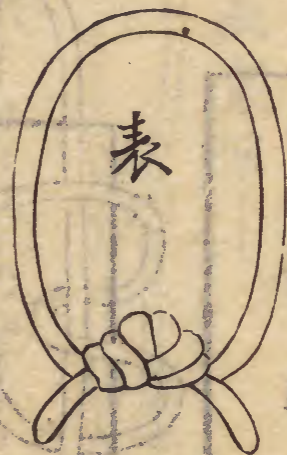


又腰紐

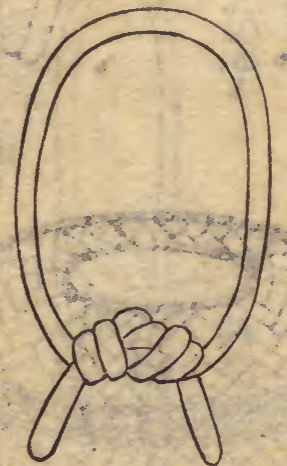
又腰紐

一 真珠寶珠結

或説ふは美人のおちふ用、一名おちひ結と云。
うらむはびをも思結と云。

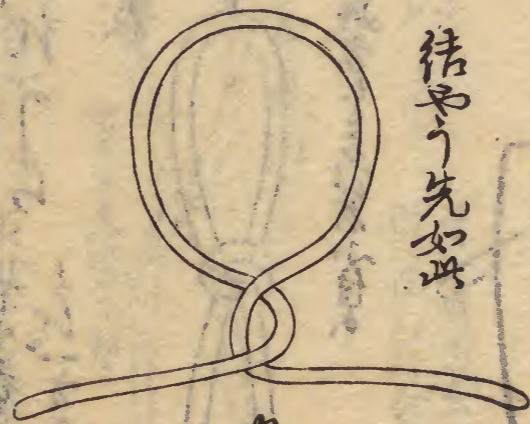


表

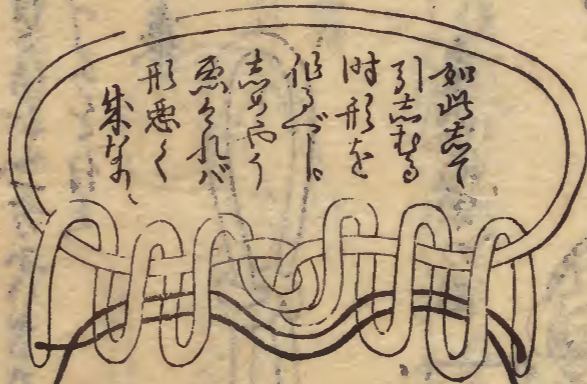


此の形小
なるが、
珠結と云。

結やう先如此



次如此



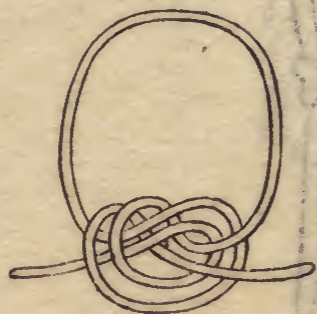
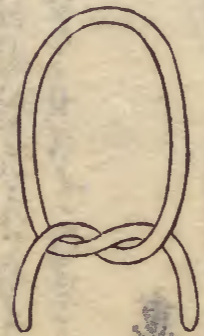
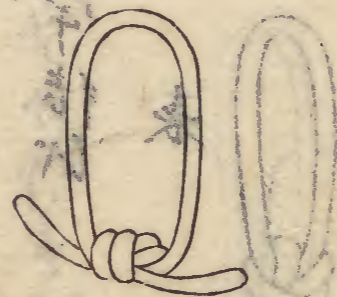
如此志す
引志む。
時形を
信ぐ。
まらう
悉く、
形悪く
朱引

此朱引の通引通す

此朱引の通引通す

一 草の宝珠結

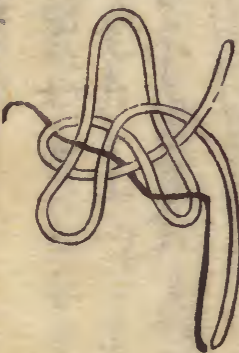
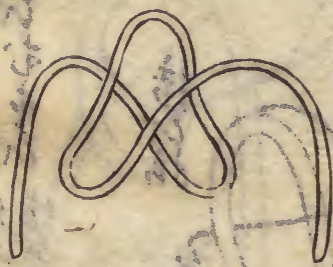
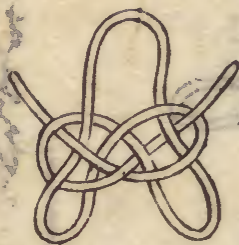
或説ふは平人のむちふ用、此結びはあふ記たる。
むら結び之結びはあふ記と云うハハヤリ。



此此引
志む

一 四つ手むすび

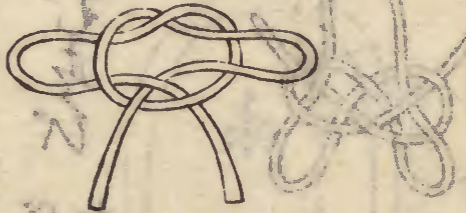
袋のそ供ふ用、その時ち下むすびをうて。
お四手結びはあふなり、そ供ふてま二をうかす。



此朱引の通引通す

一のけむまび

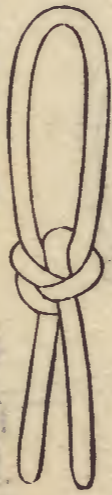
一名かけおびむまび。糸の記法からおびむまびとよめる。



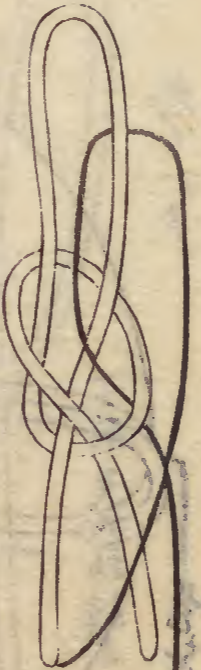
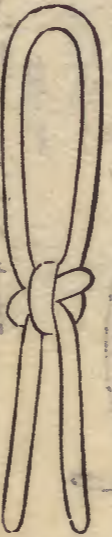
此糸引の如く引通す。

一麻^マ学^ラ結び

表



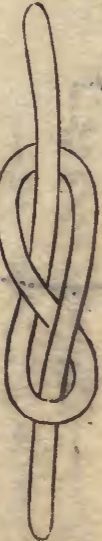
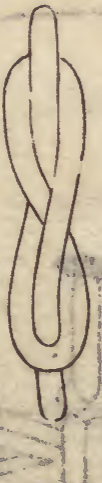
裏



此糸引の如く引通して志む。此糸引の時糸筋違へを右に引通す。

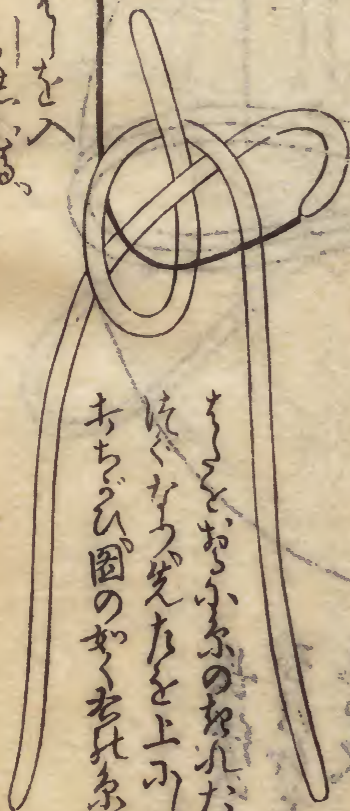
一けくやむまび

糸の記法からおびむまびとよめる。



一はら結び

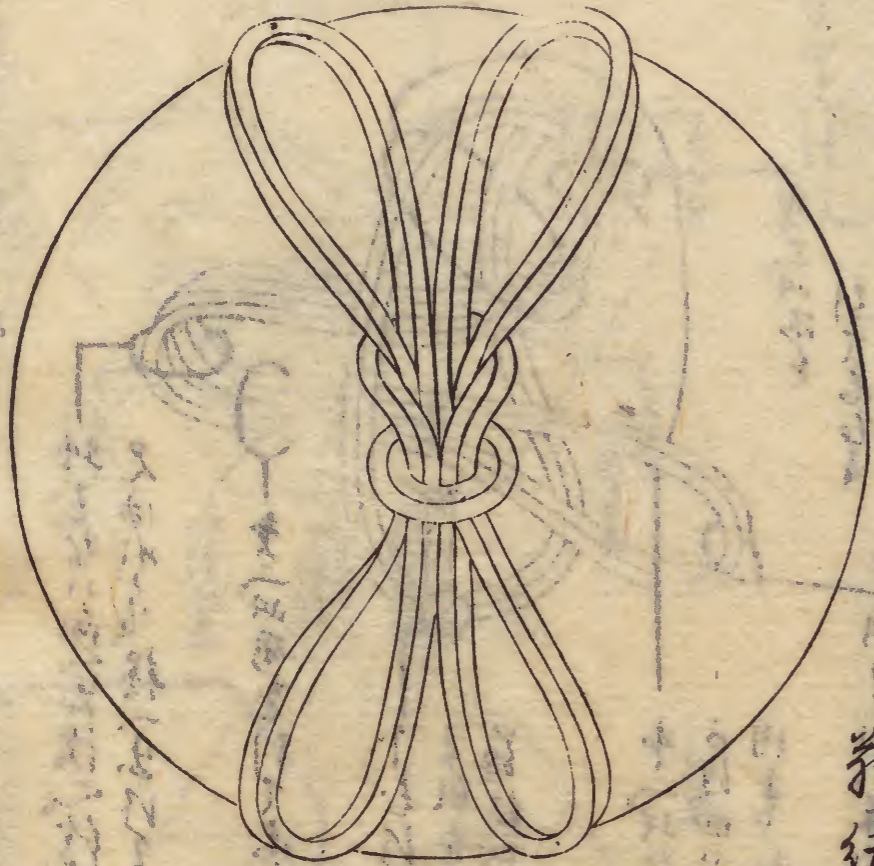
糸の記法からおびむまびとよめる。



糸の記法からおびむまびとよめる。此糸引の時糸筋違へを右に引通す。



長緒の花むすびは長緒むすびハ
とむすむづうして急転有ル
お子記したる長緒むすびは方
心物きくや、此むすびが
や。先何れとく下結び
をして、おと分向二方
引、お分のうをこつふまな
小折、二分のこつて、二
やれをほれ、は、五、ふ、小、毎
うを、石、た、み、を、組、ど、組
て、結、子、大、初、ふ、き、下、ま、き
み、引、通、金、む、川、う
た、と、な。



翁結 是も長緒也
結、お、た、の、也。

一 箱むしび結び振



此は箱むしびの結ぶ振の図に六折へ出たる振ふ
見申れども、横へ出たり、ハあるは、

一 此二筋を引て志むる。

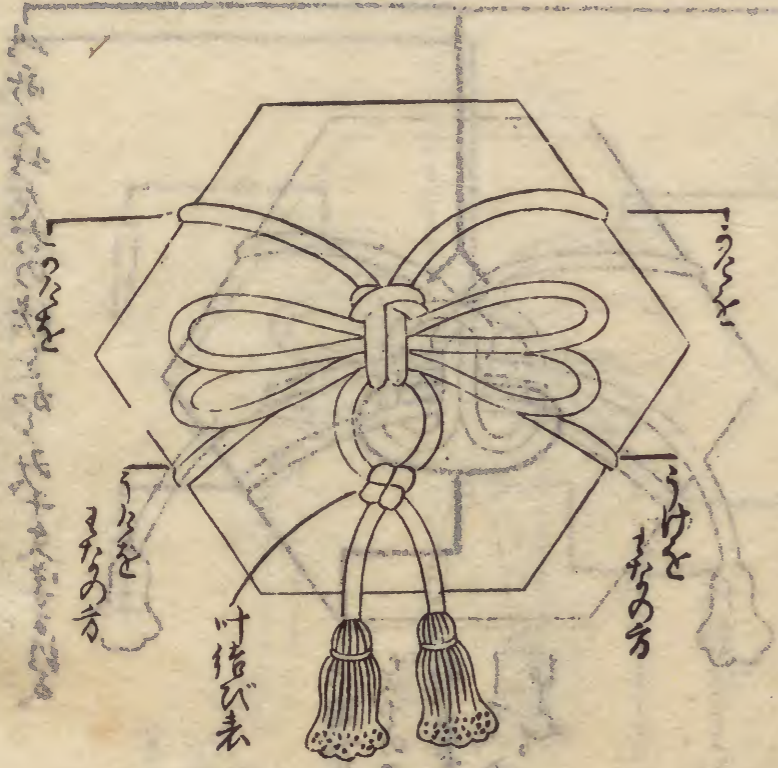
下むしびにて、右方同一振よ
り、左をもちて引たり、そ、お
箱結びをほりたり。

一 此二筋を上の四筋の三折へ
り、け、四筋のわなを、此三折なり
内より外へ引出、志むる。

此二筋の糸あむる。

此二筋を引て志むる。

一 貝桶の供やむほり結ぶ
男やんぼり



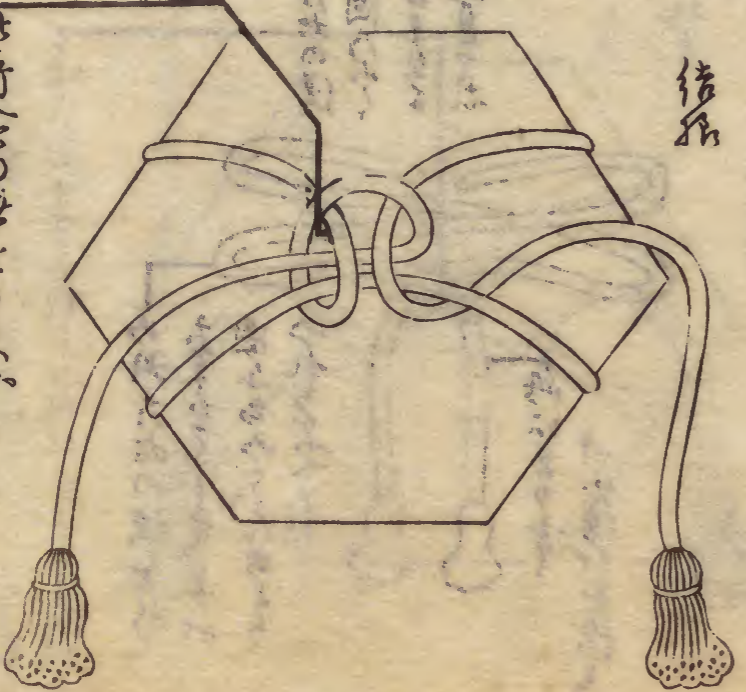
うらや

うけと
またの方

叶ほり表

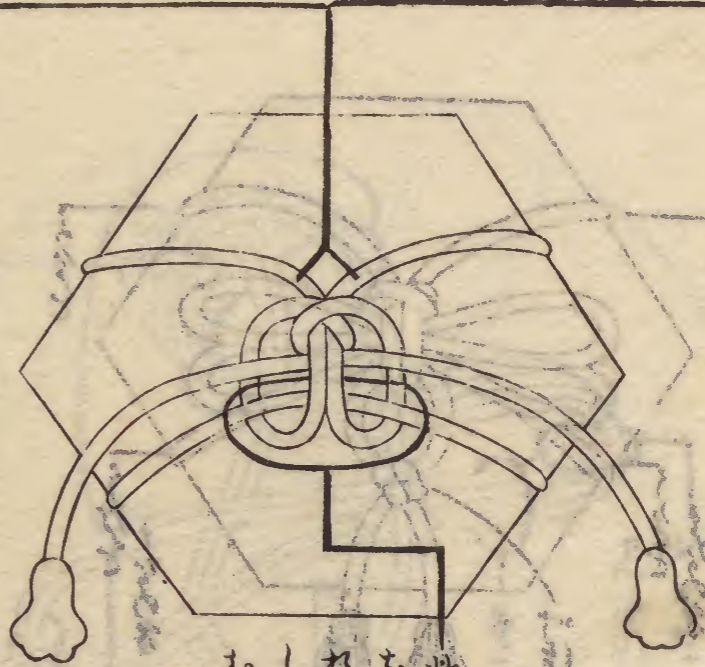
またの方

結ぶ



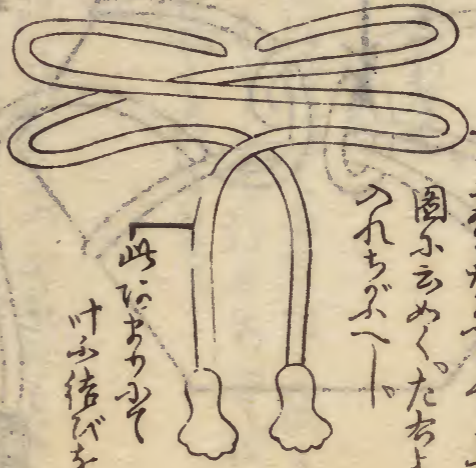
此所へ右の供をうむ。
丸の供も、此うらやむ、次の図なり。

此所此丸右の緒をかりみ十字字まほし。



此回へ左太の緒を下の圖乃れくおま方まなまして、入るまむ。

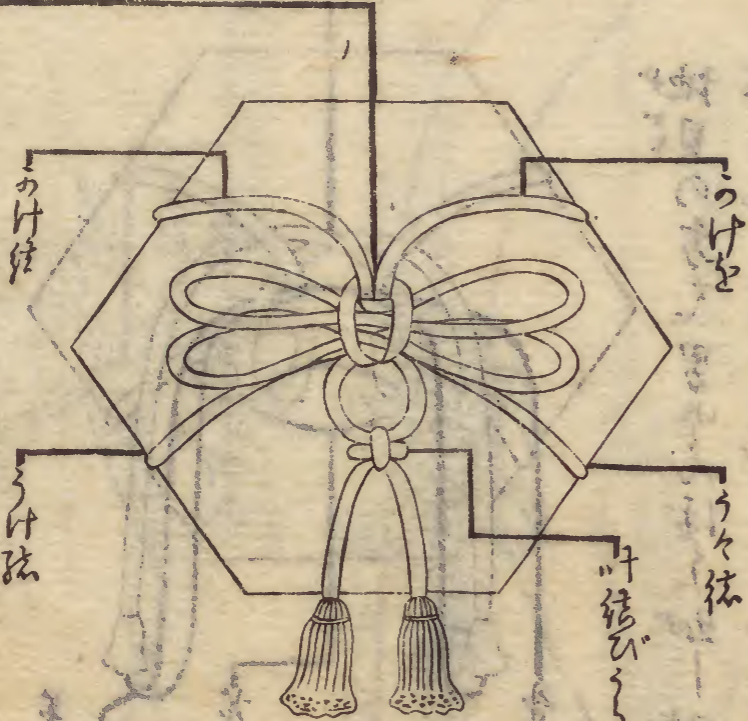
此所へ丸右の緒をかりみ十字字まほし。此の緒を左の緒と、丸右の緒と、右へ出る。



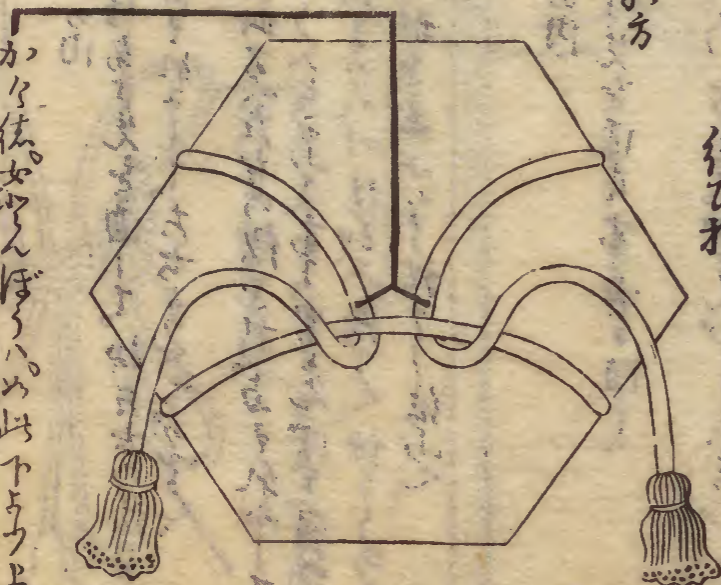
此此左太の緒をかり、あまかふく、よれ、固ふまめく、丸右より、つれちふへ。

一女おんむらう

女おんぼろ、男おんむらうを、うらむらうたむ。

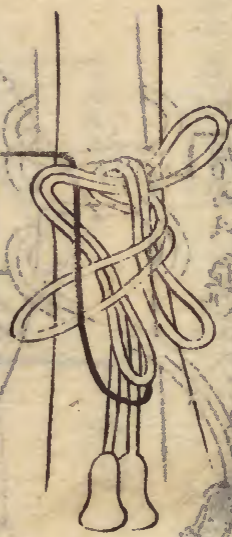


此所裏の方より十字字小かほ。



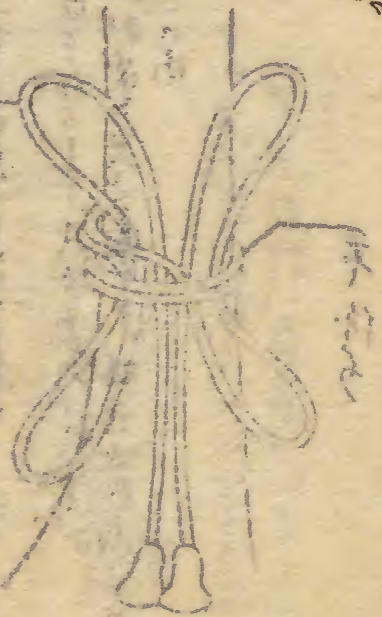
か糸緒、女おんぼろ、丸此下より、之かく、丸、男結ひ糸、前の圖れく、よまうま、あま。

一鳥帽子の結



此の鳥の巣をさすてみよ

一の目なをさすて引出す



前子部はたしむ。程又よりくはしむ。



むらびねえぬ此

次すぬ此

一舟の結... 此の舟の結をさすてみよ

一蝶結

琴袋小付



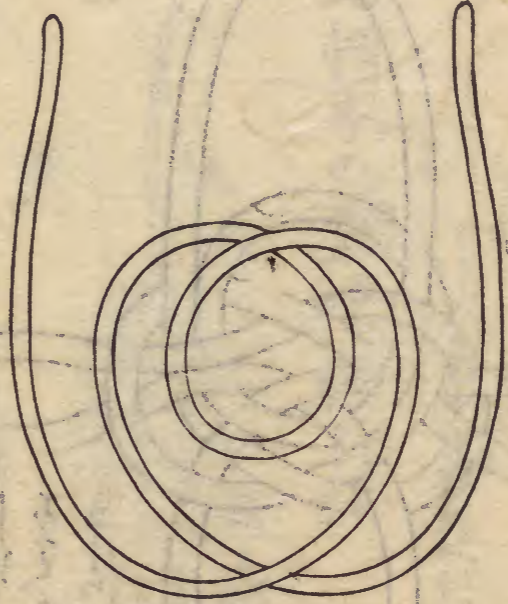
此結二部より二つ付。うけ結子はやんぼうのあまのこをさすてみよ

是をむらび

袋の合せありふ二つ、ふむらびを付す。その二つの内一は、此のたのむらびをさすてみよ。おてふむらびをさすてみよ。おてふむらびをさすてみよ。

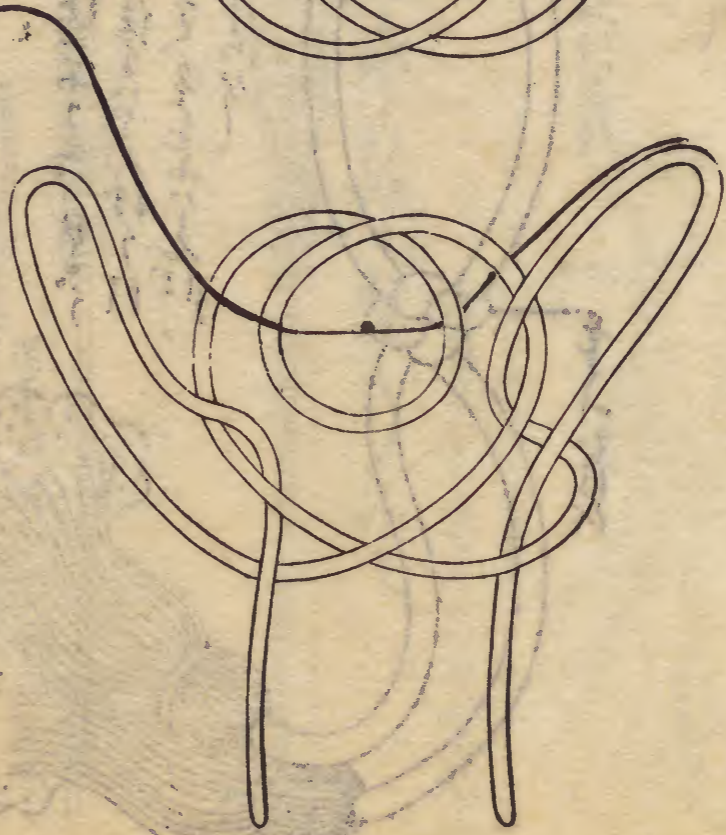
第一

倍根先如此



第二

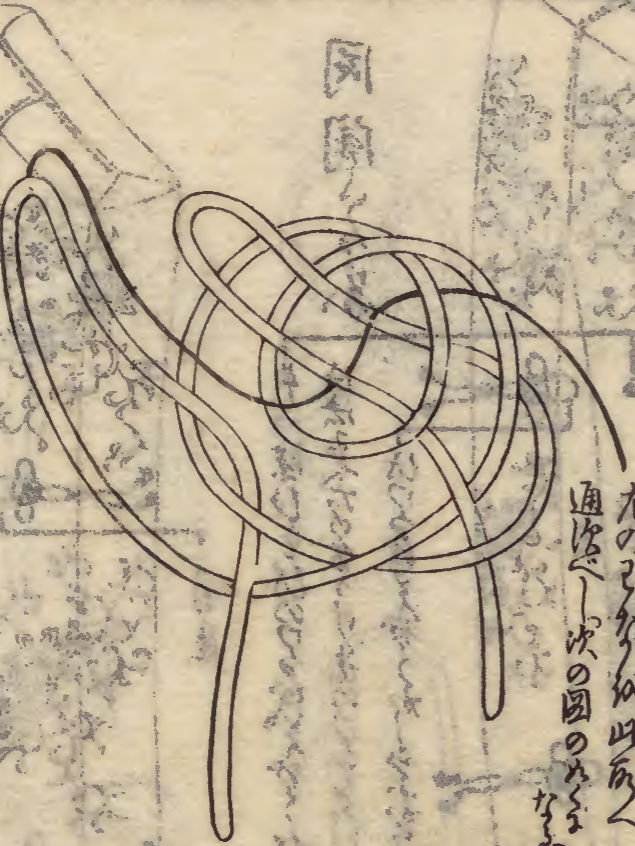
次ふ此



右の方をなすと、は中の輪の内へ下より上へ通せど、
次乃圈のふとくまなる。

第三

次ふ此



左のこをなす此所へ
通せど、次乃圈のふとくまなる。

第四

次ふ此



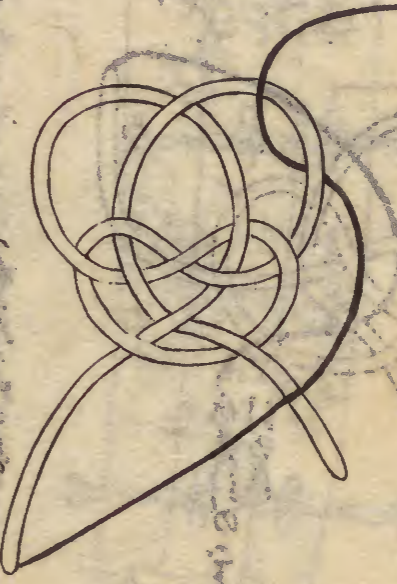
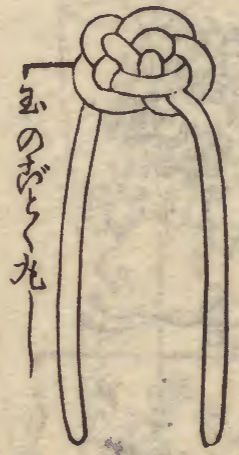
此をなすと此所へ
引出す。

此をなすと此所へ
引出す。

一巻の海の家

右の方をなすと通したる図

一 さんごうび



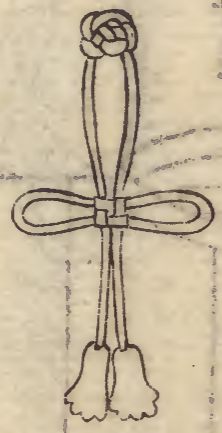
結び紙の先をこのよう結びて糸引のどく
丸の先をこの方のよう下より引る。

さんごうびは、琵琶留のちやんをどの感ふのあすにふむとびなるもの
上のほうのは紙をえぼうにむとびて一方の緒は口の紙をえぼうに
引かけてとびを重んぶるが事のよう。又絶かりきぬるもの、右の
肩の上より此紙をえぼうに紙付て上への糸緒を引うあ
と先を○の右に糸のどく。あすは結びて糸引のめく。緒の紙を
引通して大のりをもよく引はれて、じ紙より、括えたる中を糸

絶の束帯は片上
着る装束ナリ

くぼめて、紙を引あむとびは、たすのめく、紙はじり出
き、がごまらめてあんまへん。とんは、糸のこに糸を入る。

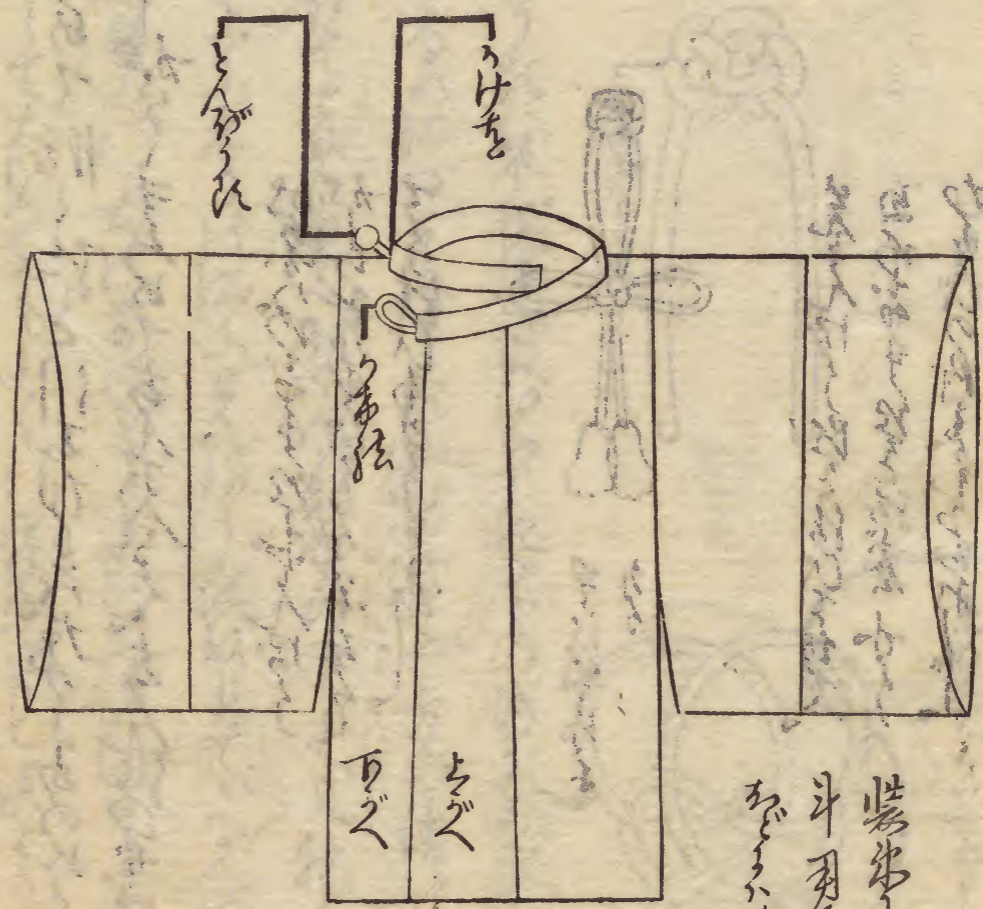
は、糸のこに糸を入る
が、糸のこに糸を入る
と、結びの糸をあら



糸引のめく

先をこのよう結びて糸
引のめく、糸のこに糸を入る
と、結びの糸をあら

装束小もんぢうぐらひなる糸



装束小もんぢうぐらひ
斗羽のちぢうぐらひ
ちぢうぐらひ

一 くるむび

に貝子法びと書いじまふ貝子法をた
貝子法は法びと書いじまふ

表

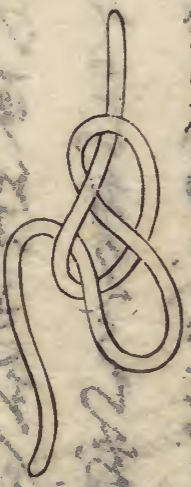


裏

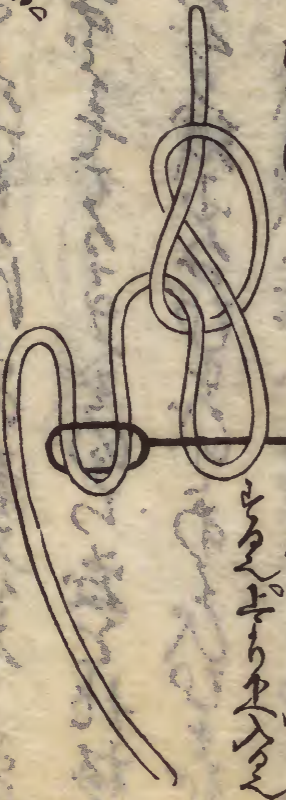


こまむしひと書いじまふ
こまむしひと書いじまふ
こまむしひと書いじまふ

結び板え糸



法糸



法糸引のてぐらひ
口のつらも糸
とらふより糸

右のよむとれぢうぐらひ

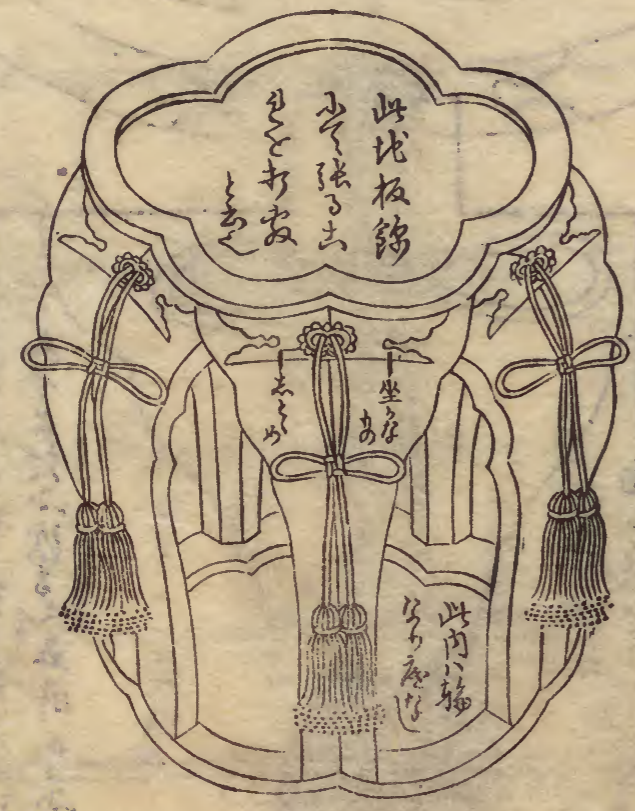


ちぢうぐらひなるちぢうぐらひ

右のほろむしびひゆらほきこの者又ハ三條 棚をのらぬ
 くらけら小用えらし表と六中らほきこの者又ハ三條
 などの面紙おき起らんきとてらるるそのらぬと地板
 備えとらけらえらち表のぬらけらむしびとわびひき
 かりとらるるてとほらぬわび結ひの糸おきとらるる
 結ひのるえぬきのとらぬまの結紙を引出して何事
 むしびとらぬわらさき結紙おきとらるるの者ありの糸
 たらぬみけり 棚ハ柱の糸とらぬとらぬも月並何事
 ともみけりわらさき結ひのわらぬ糸とらぬとらぬの
 結ひとらぬ結ひとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ

一 淋^{ユル}杯の臺全圖

地板結ひ振次あり



あまび結び

此面錦金襴
等小ては
もろはるハ暑
儀なる

小な結び

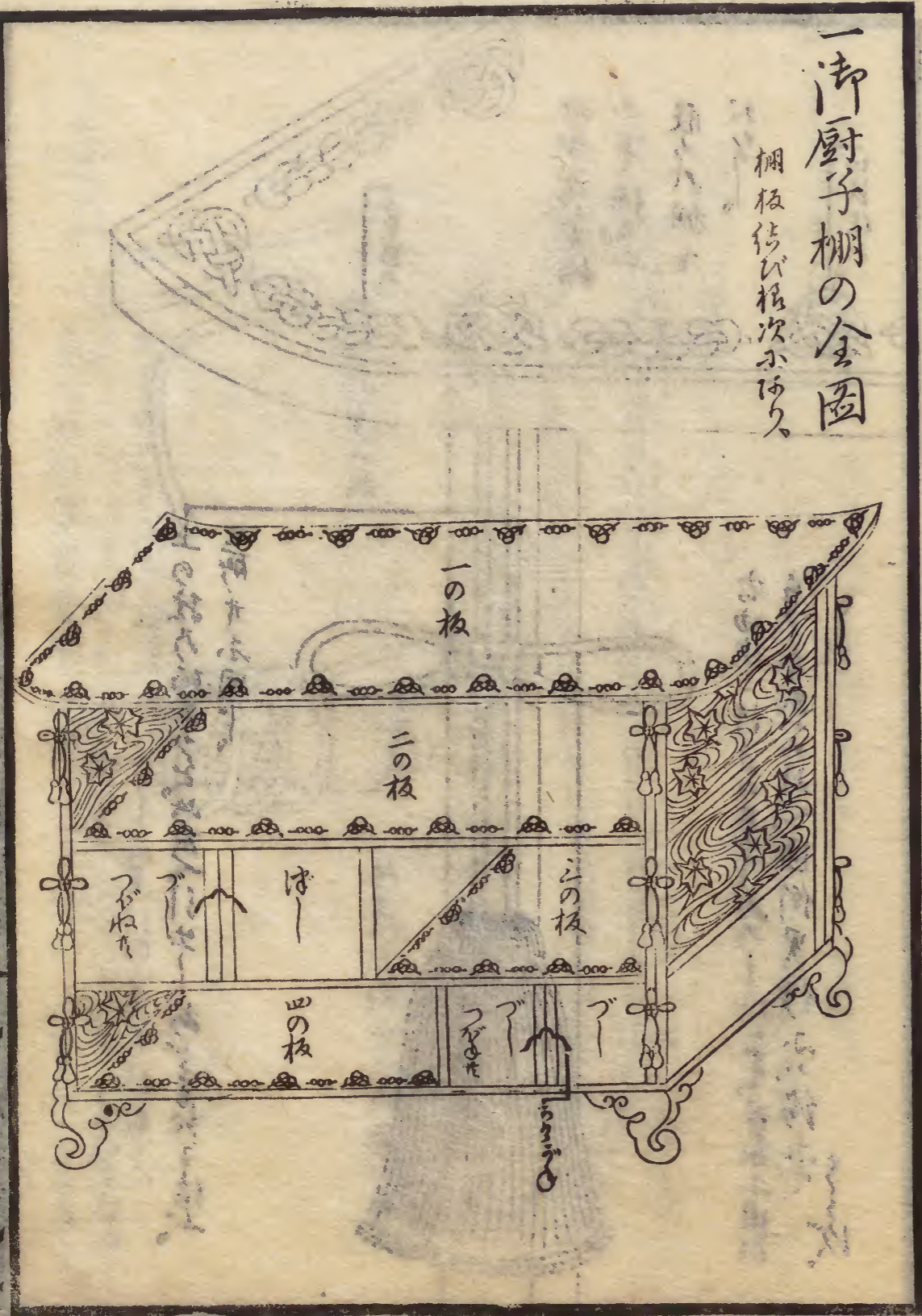


面をやちたる緒を此所へ引ひき
あがまね小波の五所せふ同下。

面を緒せやちひて、さ乃
所ふ片不み砂をうちて、別
よあげまねを緒て付るも
暑儀なる

一 浄厨子棚の全図

棚板結び格次不ゆり



一の板

二の板

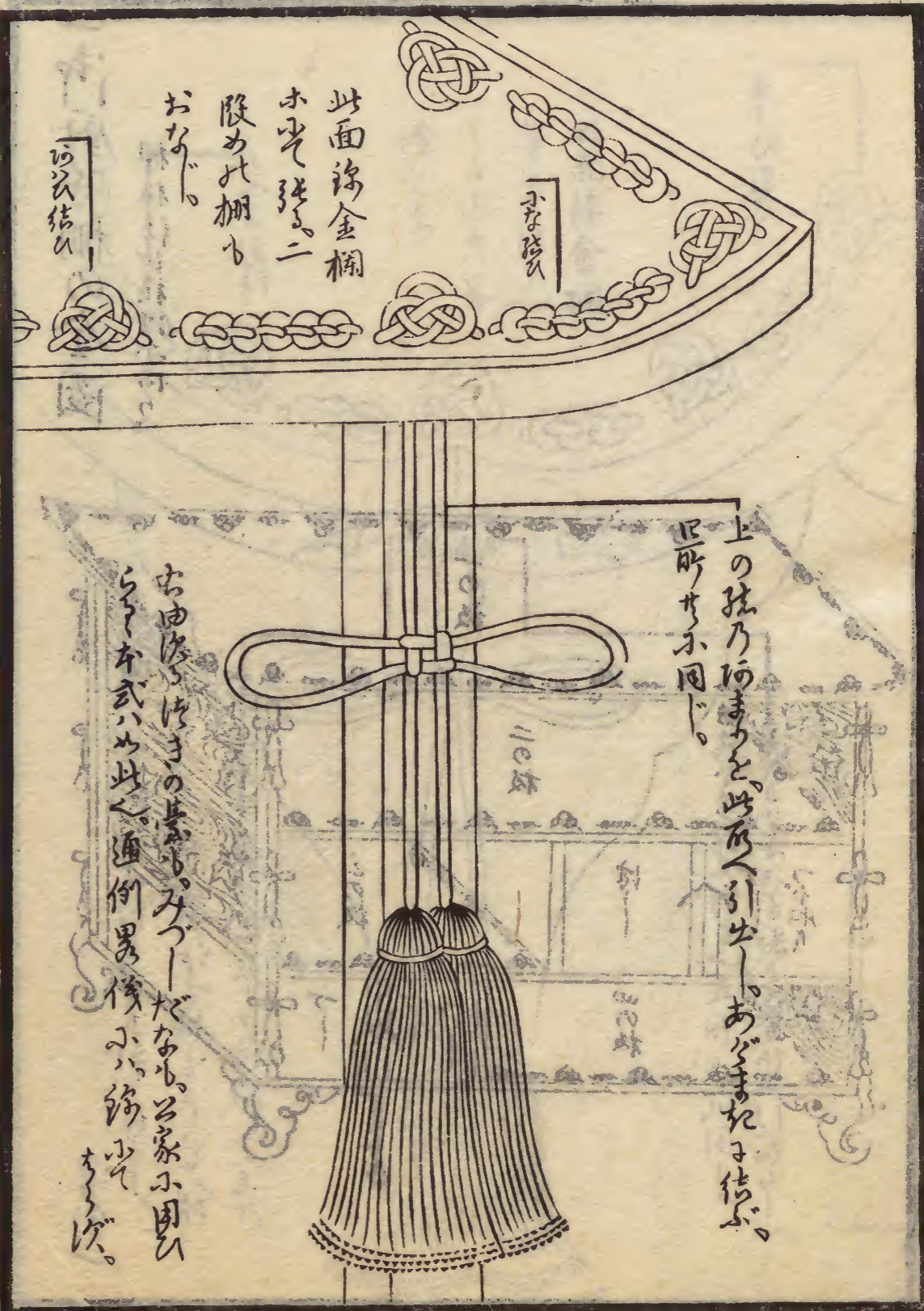
三の板

四の板

つがね

つがね

つがね



此面漆金欄
ホ光強ニ
股め此欄も
おなご。

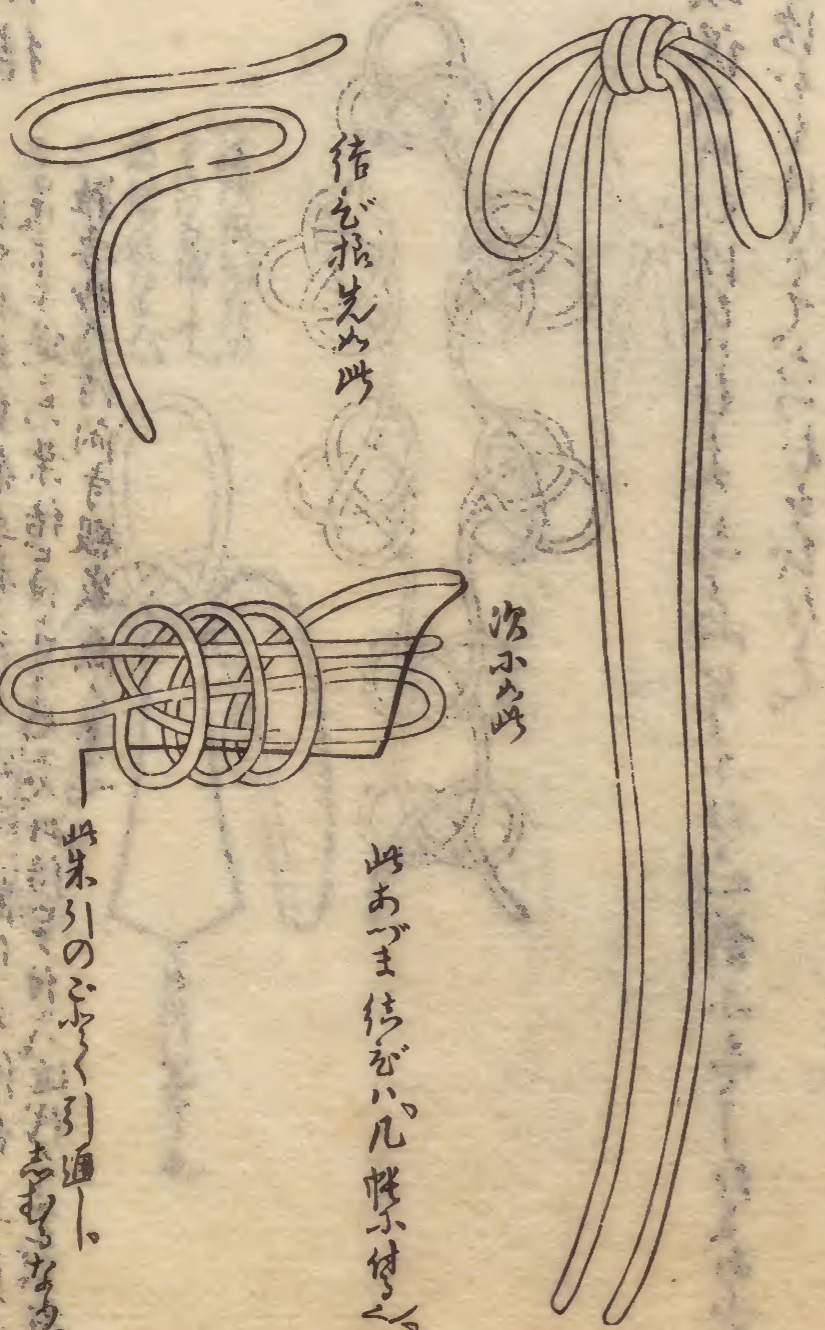
小な弦

ひん結

上の弦乃何まりを此所引出し。あごまは子結ぶ。
正所サ不同じ。

お由緒は昔の長も。みづーだちも。各家不同の
らへ本式ハ此へ通例異候ふハ。飾り
ちう次。

一 何はまむしび



結む指先ハ此

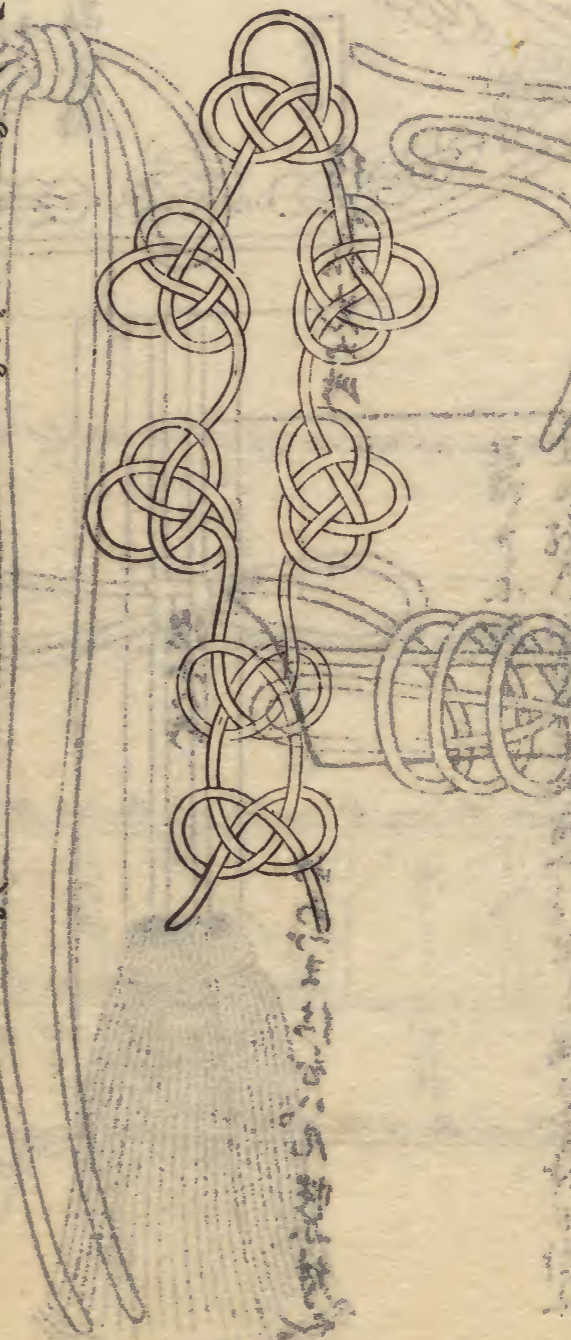
次ハ此

此あづま結むハ。凡帳不付ハ

此朱引のぶやく引通し。

一六^{ロツコ}葉結

貞丈按、類聚雜要抄ニ禱并筵等ノ制作式繪番ニ妻ノ見エタ
レ氏ト子筵ニハ葉結ト付ルハ見エタ此結ト付ルハ近代全卷右ノ
雜要抄ハ清閑寺殿家蔵ノ書ニ

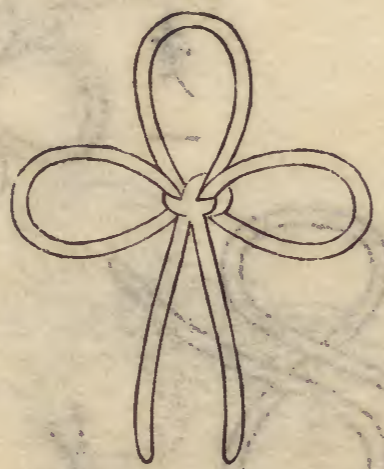


或説云此も此のむしちねふ付る前小立一たあふ
むしむをけくそらつむむびた

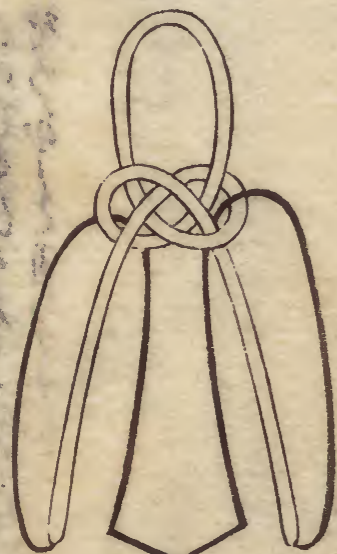
おあづまむむびハ系結びの付やう乃事ハ公家の古実知りたる
人ふたぬべーむむむやうハおのぶと

一少んぼうむむび

はらんがう結びを付されむむむあり
体係ふり不用と



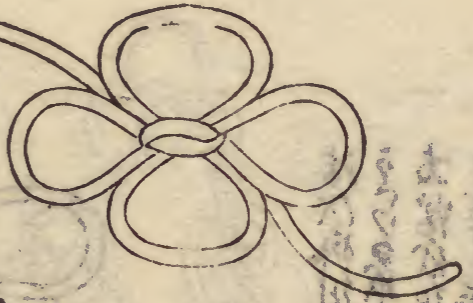
結びぬれたの
うつろいそ
支那成むむび
めをすんけいの
お



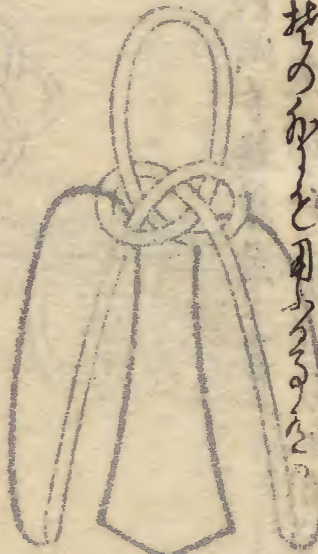
此の口をす也

一 ちんちんちんちん

あのみぎびとあつぎのけふも
昔のあつぎとあつぎのけふも



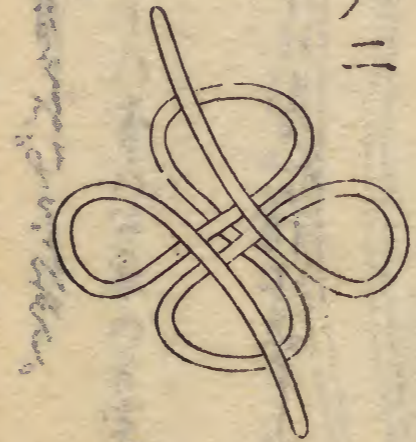
オ一



あつぎのけふも

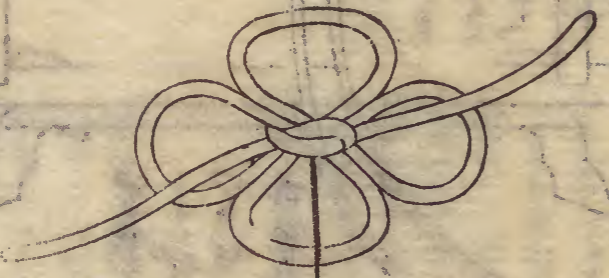
むぎびやうたの思ひぢり。

オ二



オ三

オ四 ちんちんちんちん

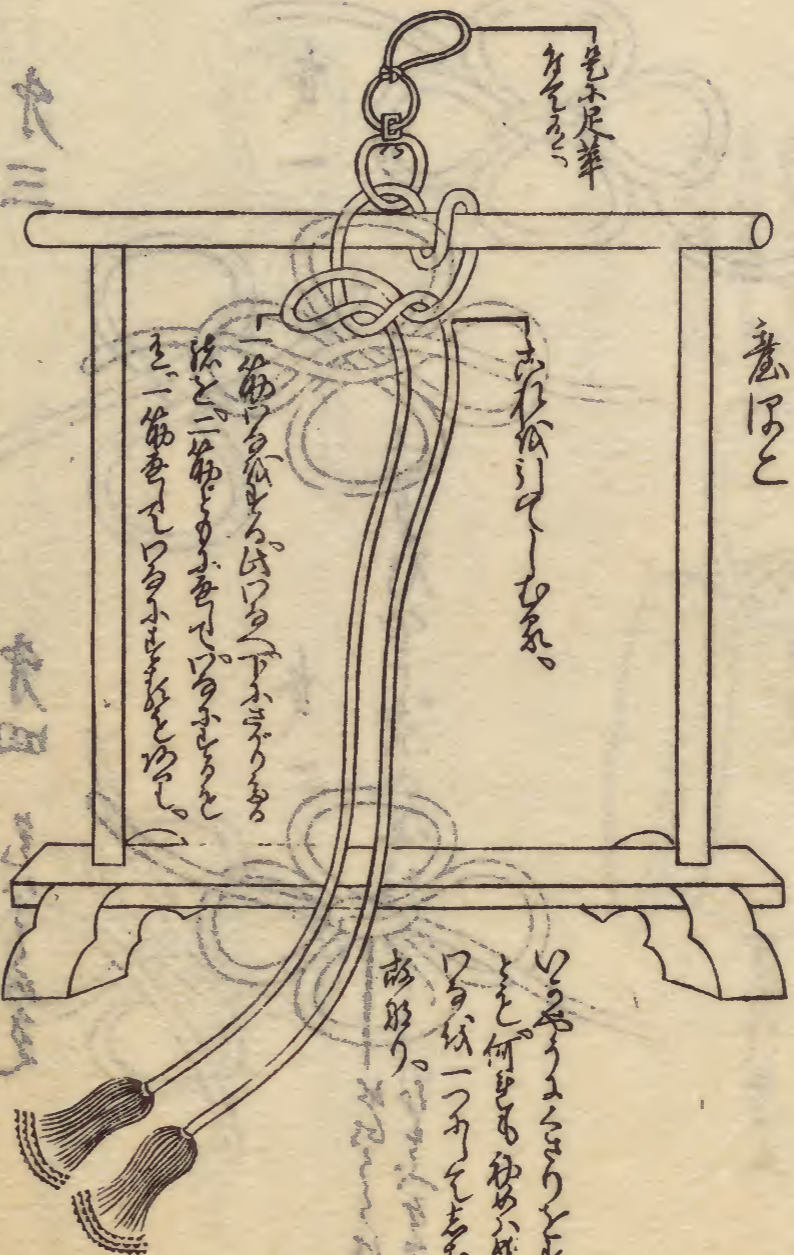


あつぎのけふも
むぎびやうた

一考は方だね三品

大徳のくるとね三品あり

意はと

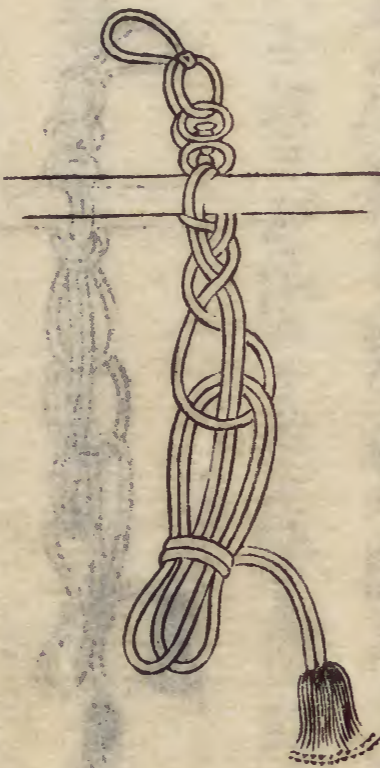


先不足華

大目

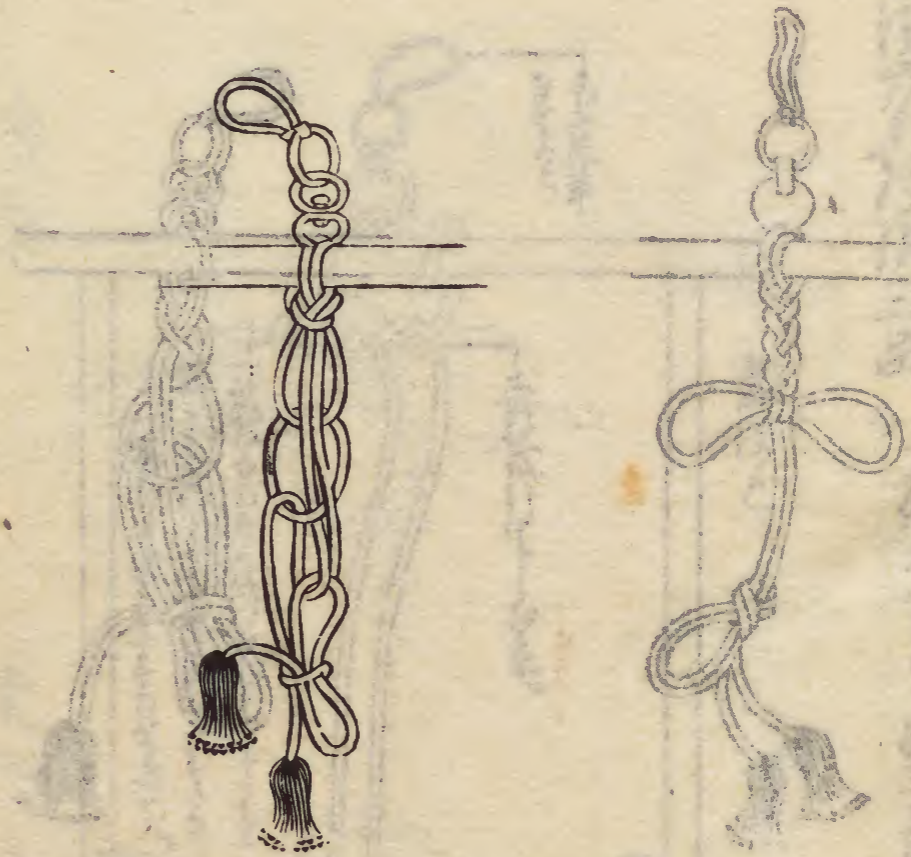
一節は...
二節は...
三節は...

この...
は...
の...



此一考り...
初一つ...
二節...
三節...
四節...

は...
初一つ...
二節...
三節...
四節...



引んばりしむまびのさくま
 は附結のさくま結なり
 さくに結をさくまのりる
 けり。一方ちく一方まどろ
 なるなりねまゆり結と折
 えしむ。二巻十巻さくま
 やうふ。さくまの巻て書
 方より。結をさくまのり
 せり。

あのとより結をさくまのり
 結一つりさくま。二巻と一
 巻とさくまのりさくまのり
 入る。さくまのり何とさ
 ちよりのさくまのりさくま
 か。同くさくまのりさくま
 内みよるさくまのりさくま
 七巻方とさくまのり。二巻
 中さくまのりさくまのり
 あり。

右道かの結形も、常家の流儀とさくまのりさくまのり
 同くさくまのりさくまのりさくまのり。

寶曆十四年甲申二月十日

伊勢平藏 貞丈書

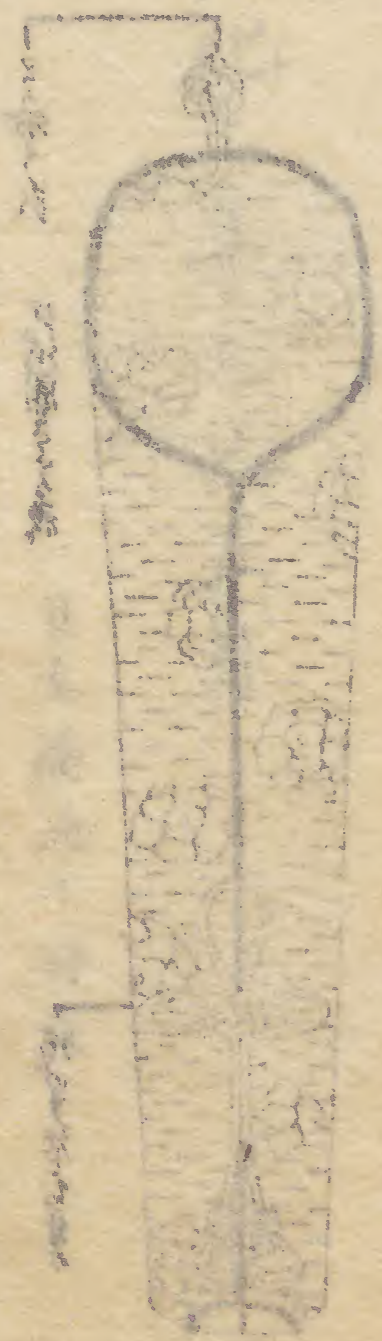
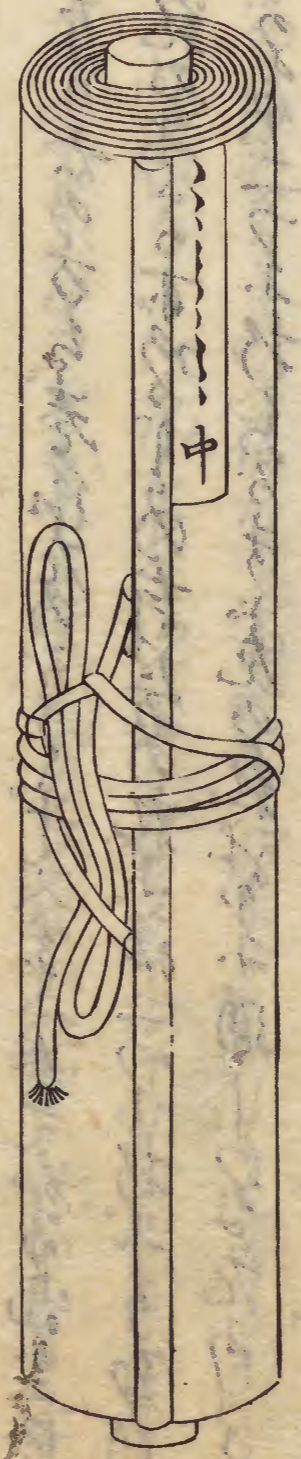
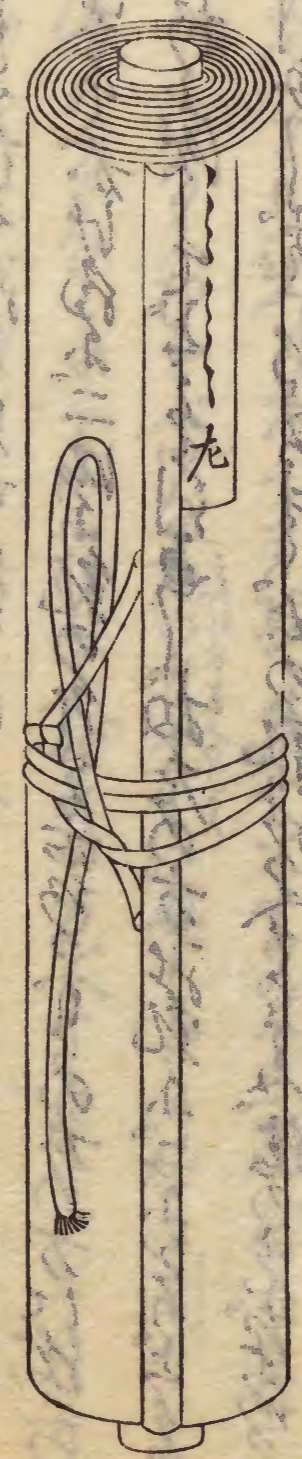
追加

一 空穂がの法はしじび法を丸巻ふすこと十文字ふかる巻
 丸ちりしつの巻てまじりて其十文字のふ法丸右より通し
 うのちりふむとぶの丸の方なはなりしては丸の法のちりふむとぶ
 緒のちりふむとぶ丸の法のちりふむとぶ丸の法のちりふむとぶ
 一 掛繪なの緒の丸の法のちりふむとぶ丸の法のちりふむとぶ
 三 幅對あらば丸の法のちりふむとぶ丸の法のちりふむとぶ
 十の文字ふかる丸の法のちりふむとぶ丸の法のちりふむとぶ
 丸の法のちりふむとぶ丸の法のちりふむとぶ丸の法のちりふむとぶ

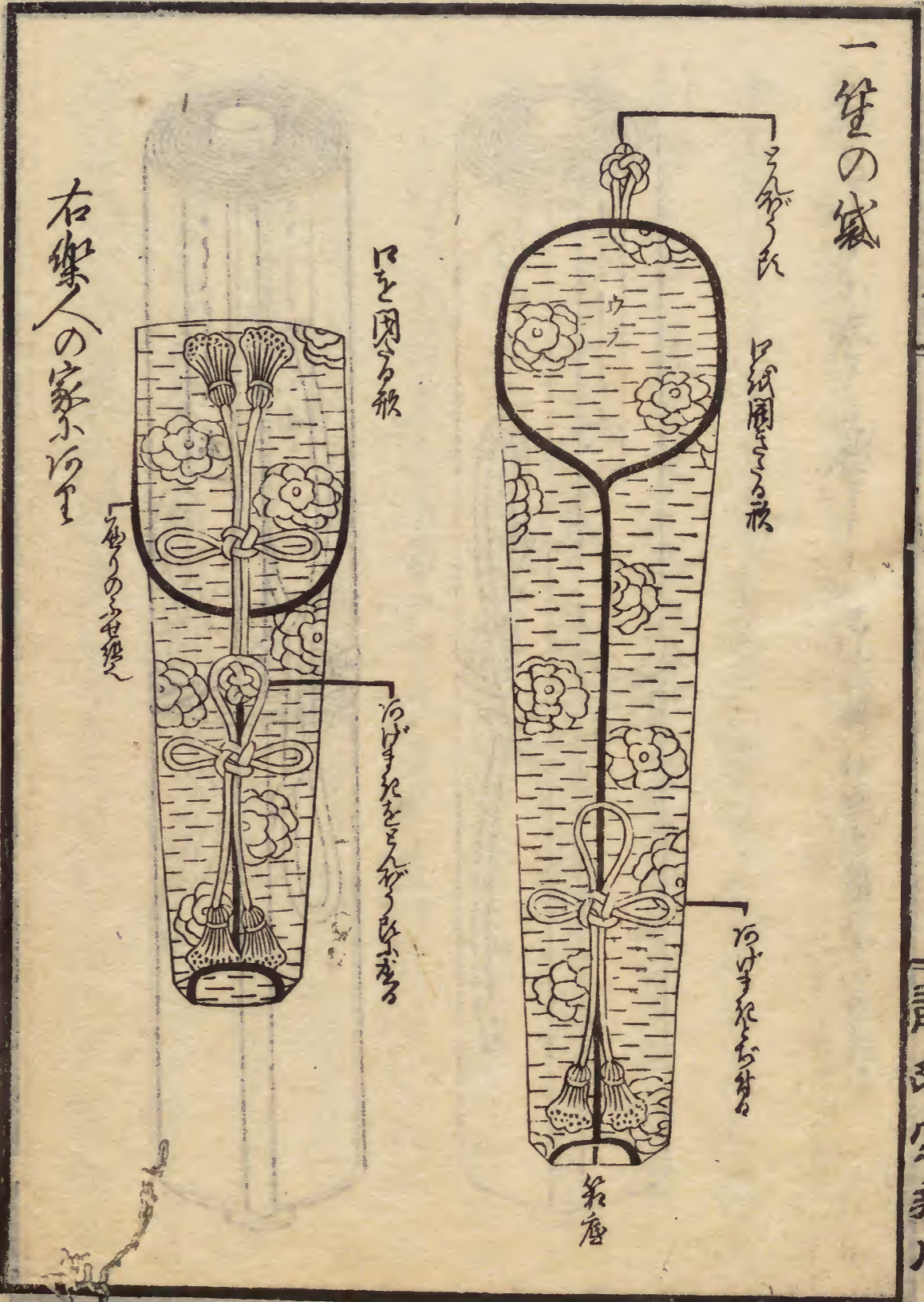
右の乳は下に通しつるちりてまじりて法の先たふなる
 たり右の方を巻紙たのてり十文字ふ巻紙か物ふ二はふ
 乳の付るる丸の法のちりふむとぶ丸の法のちりふむとぶ
 この巻二つふ折る丸の法のちりふむとぶ丸の法のちりふむとぶ
 まじりて法の先たふ巻紙中の方の丸の法のちりふむとぶ
 巻紙がけぬふ二はふ乳の付るる丸の法のちりふむとぶ
 折る丸の法のちりふむとぶ丸の法のちりふむとぶ
 引みりて折る丸の法のちりふむとぶ丸の法のちりふむとぶ
 まじり折る丸の法のちりふむとぶ丸の法のちりふむとぶ
 先た丸の法のちりふむとぶ丸の法のちりふむとぶ



糸乃中糸巻了座り。三三件伊織与圓字の尻形



一笠の袋



右樂人の家小町

伊勢平蔵著
屋代太郎校

川目泰助藏板

弘化二年乙巳五月

江戸書林

文苑閣

播磨屋勝五郎發行

日本橋通十軒店

